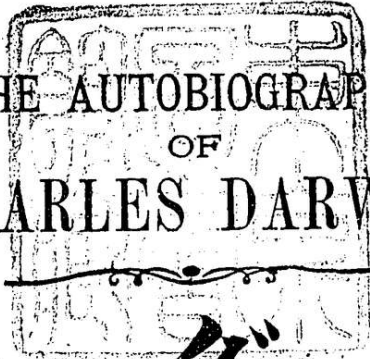


No 1644 / XXIV.

THE AUTOBIOGRAPHY
OF
CHARLES DARWIN.



理學士五島清太郎譯

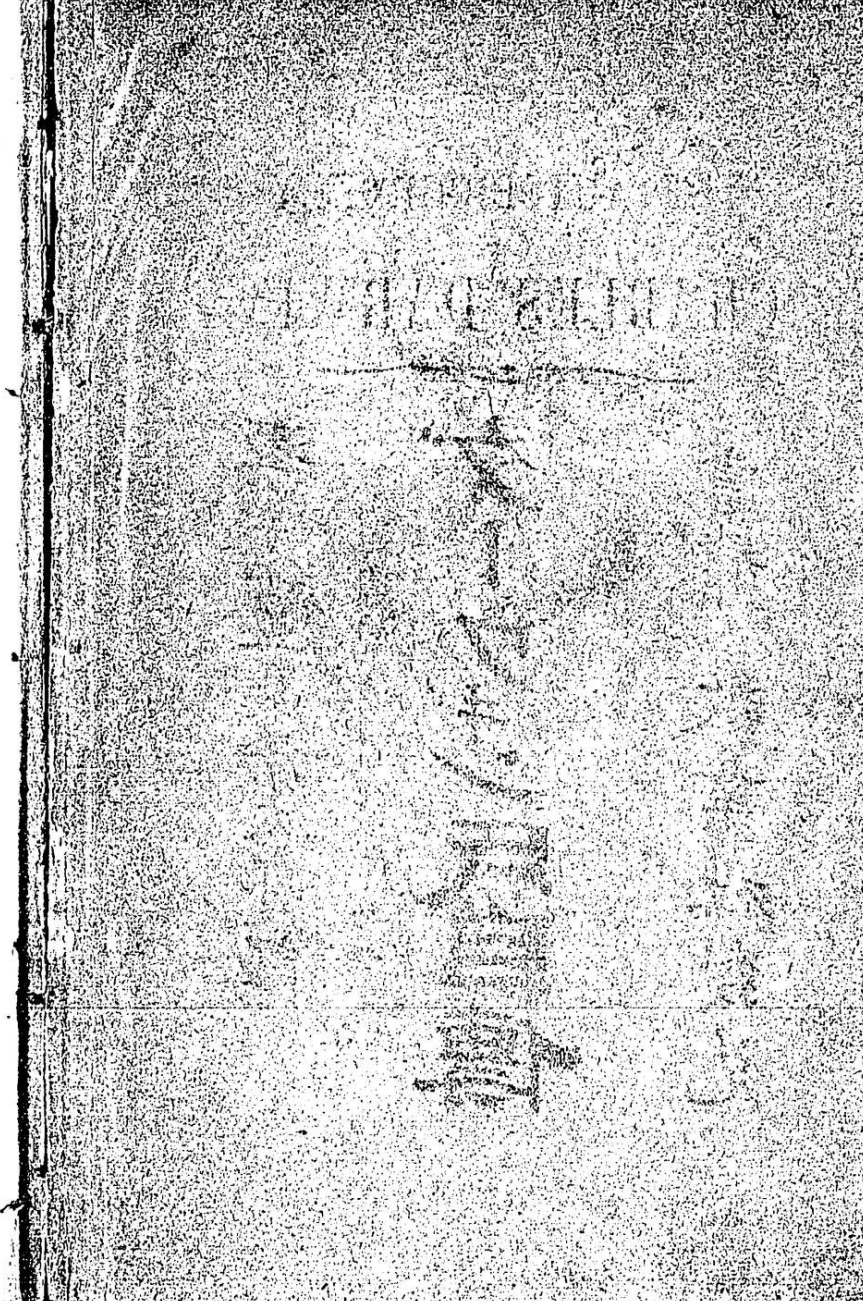
ダーウソンの自傳

書肆 敬業社發兌





Charles Darwin



- led to comprehend two affinities. ~~by~~ by them
 would give zest to ^{second step is} Comparative Anatomy; it
 would lead to study of instincts, heredity, & mind heredity,
 while metaphysics. It would lead to descent & common
 of hybridization, separation, causes of change ^{in order} to know what we
 have come from & to what we tend. —
 to what circumstances favor coming & what prevents it.
 This ^{direct} examination of direct papers of species structure in
 species might lead to laws of change, which would then
 be main basis of study, to guide in part of speculation.

FROM A NOTE-BOOK OF 1837.

-led to comprehend true affinities. My theory would give zest to recent & Fossil Comparative Anatomy: it would lead to study of instincts, heredity, & mind heredity, whole metaphysics, it would lead to closest examination of hybridity & generation, causes of change in order to know what we have come from and to what we tend, to what circumstances favour crossing & what prevents it, this & direct examination of direct passages of structure in species, might lead to laws of change, which would then be main object of study, to guide our speculations.

例言

一此ニ公ニセルチャールス、ダーウ井ンノ自傳ハ先年
其ノ兒フランシス、ダーウ井ン氏ノ公ニサレタル傳
記中ノ一章ヲナセルモノニシテ余ガ嘗テ動物學雜
誌ニ譯出シタルモノヲ訂正シ纏メテ一冊トナシタ
ルモノナリ

二書中術語ノ解シ難キモノ、外國語ヲ其儘用ヒタルモ
ノ、及ビ人名ノ著明ナルモノニハ終ニ注ヲ加ヘテ說
明セリ聊カ普通讀者ノ便ニ供セント欲スルノ微意
ニ出デタルナリ識者乞フ之ヲ諒ゼヨ

三注ノ中原書ヨリ直ニ譯出シタルモノアリ是等ハ皆
フランシス、ダーウ井ン氏ノ加ヘラレタルモノナレ
バ終ニF. D. ト記シテ余ノ新ニ加ヘタルモノト區別

セリ

四譯文ニハ可成原文ノ特異ナル所ヲ保存セムトヲ勉
メタレバ直譯過ギタル所數多アラム讀者之ヲ諒セ
ヨ

五八二一八三頁間ニ挿入シタルダーウ井ンノ手書ハ

原書ノ第二卷ヨリ轉寫シテ英語ヲ讀マル、讀者ノ
興ニ供フルモノナリ

六注ヲ加ヘタル所ニハ(※)ヲ附シテ之ヲ示セリ

明治廿四年六月

譯者識

原序

此章ニ公ニセル余ガ父ノ自傳ハ其子供等ノ爲メニ認
メタルモノニシテ是ヲ世ニ公ニセンナゾトハ父ノ夢
ニダモ思ハザリシ所ナリ斯ク曰バ是ハ決シテアル可
ラザルトナリト謂フ人モアラム然レモ余ノ父ヲ親シ
ク知レル人々ハ此ノ如キトハ徒ニアリウルノミナラ
ズ實ニ當然ノ事ナラムト謂ハム此編ハ題シテ余ガ心
及ビ性質ノ發達ノ記ト曰ヒ終ニ左ノ記アリ曰ク一千
八百七十六年、八月三日、左ニ記スル余ガ傳ハホー
ーニ於テ五月廿八日ニ始メ爾來殆ント毎午后一時
間程ツ、是ヲ認メタリト斯ノ如ク己ノ妻及ビ子供等

ノ爲メニ認メタル極親密ナル記録中ニハ今削除スベ
キ所アルコトハ誠ニ解シ易キコトナリ而シテ如何ナル場所
ニ削除ヲ加ヘタルヤ是ヲ示スハ不要ノ事ト余ハ思考
セリ又言語上少々正誤シタル所モアレド此等ハ可成
爲サヤル様シタリ

フランシス、ダーウ、ン

注

原序九行

ホープデーン——サレー州ニ於ルヘンスレー、ウエヂウード氏ノ
宅ナリ(F, D)。(ハンスレー、ウエヂウードハダーウ、ンノ近親ナリ

二頁十一行

ふらんく——郵便印紙ノ代用ヲナスモノ
メアー——叔父ジョセフ、ウエヂウード氏ノ宅(F, D)

一四頁四行

Poco curante——伊太利語ニテ「不注意」ノ儀ナリ(poco = little, curante =
attentive.)

一八頁六行

ラマルク——Jean Baptiste de Lamarck 一七四四生一八二九死、佛國ノ

有名ナル博物學者ニシテ生物變遷說主唱者ノ内重ナル者ナリ
同 八行

Zoonomia, by Erasmus Darwin.

此ノ書ハ英國ニ於テ始メテ生物變遷說ヲ主張セタル書ナリ
十九頁九行

ふらすゆら——蘚苔蟲ノ一屬

同 十行

Fucus loreus——海藻ノ一種

同 十一行

Pontobdella muricata——蛭類ノ一種

二十六頁三行

Sir James Mackintosh——一七六五生一八三二死政治家及ヒ史學家
ナリ

二七頁十行

Iustum et tenacem propositi virum

Non civium ardor prava jubentium,

Non vulnus instantis tyranni

Mente quatit solidâ. (F.D.)

是ヲ意譯スレバ

不正ヲ樂メル有力ナル士民ノ熱望モ怒レル暴君ノ顔モ正シキ

勇士ノ鞏キ目的ヲ枉ルヲ能ハズ

二九頁七行

ヲンスフオード及ビケムブリッヂ

三一頁一行

小試験——Little-Got 稱シテ吾ガ大學ノ學年試業ノ如キモノ

同 二

B. A.——Baccalaureus artium 大學ヲ普通ニ卒業シテ得ル學位

三二頁二行

Oi polloi——希臘語ニテ凡庸者ノ儀ナリ (The many, the vulgar.)

三二頁六行

Adam Sedgwick・一七八五生一八七三死、地學教授ナリ

三四頁六行

Sir Joshua Reynolds 一七二三生一七九二死英國ノ像畫家

同 九行

Fra Sebastian del Piombo 一四八五生一五四七死伊國ノ畫家

三五頁十一行

吾ガ君ガ代ニ對スル英國ノ國歌

四三頁十二行

フムボルト——Friedrich Alexander von Humboldt 一七六九生一八五

九死獨乙有名ナル博物學者「實見記」ト即チ Personal Narrative ナリ

同 十三行

Sir John Herschel's "Introduction to the Study of Natural Philosophy サイジ

ヨン、ハーシェルハ一七九二生一八七一死、有名ナル英國ノ星學者

四七頁十三行

もれいん——Moraine 氷河ノ兩側及ヒ中央ノ部分ニアル石片ノ列

ヲ謂フ

四八頁一行

哲學雜誌——Philosophical Magazine.

五〇頁十三行

ラフナーテル——Johann Kaspar Lavater 一七四一生一八〇一死、瑞西

國の人相學者

五四頁十行

ライエル——Sir Charles Lyell 一七九七生一八七五死英國ノ地學家
其大著ハ即チ Principles of Geology (地學原理)ナリ

六八頁三行

Barrier-reefs ハ多小海岸ヲ隔テタル珊瑚礁 Atolls ハ中央ニ陸ナク
マ珊瑚礁ノミガ輪ヲナセルモノヲ謂フ——ダーウキンノ説ニ由
レバ乙ハ甲ノ歩ヲ進メタルモノニシテ陸地ノ漸次下落スルト珊
瑚ノ是ニ從テ上方ニ生長スルニ由テ生スルモノナリト

七一頁十行

變災説——The Doctrine of Successive Cataclysms 是ノ説ハ前世紀及
ビ現世紀ノ始ノ頃ハ學者ノ一般ニ信ゼシ所ニシテ是ニ由レバ地
球ハ幾度トナシ改造新鑄サレシモノナリトライエルノ主張セシ
Uniformitarianism ハ全ク是ニ反スルモノナリ

七二頁五行

「高マリニ因テ生ジタル火山穴」——“Elevation-craters”是ハ今ヨリ六
十年程前一般ニ行ハレタル説ニシテ火山ハ總テ地下ヨリ四方一
様ニ働ク所ノカノ爲メ持上ゲラレテ出來タルモノナリトノ説ナ
リ

「高マリノ線」——“Lines of Elevation”是ハライエルガ其ノ地學原理
ヲ公ニセル前地學者ノ一般ニ採用シタル假説ニシテ山脉ハ種々
ノ地質時代ニ地層ガ速ニ持ガリタルモノニシテ同時代ニ持上ガ
リタル山脉ハ互ニ相平行スルトノ説ナリ

七二頁九行

ロバートブラウン——Robert Brown 一七七三生一八五八死

七六頁六行

スターホープ——Philip Henry Stanhope 一八〇五生一八七五死

七七頁五行

モットレー——John Lothrop Motley 一八一四生一八七七死、米國ノ史學家

グロート——George Grote 一七九四生一八七一死

全 十三行

秘學——中古時代ノ星學及ヒ化學ヲ謂フ

七八頁七行

バツバーヂ——Charles Babbage 一七九一生一八七五死、數學家

七九頁十二行

キングスレー——Charles Kingsley 一八一九生一八七五死、英國ノ僧

官及ヒ文學家

八〇頁一行

ゴッテ——Johann Wolfgang von Goethe 獨逸ノ詩家氏ハニユートンニ反シテ一ノ光ノ説ヲ主張セリ

八四頁二行

コンコレパス——Concholepas 腹足類ノ一屬

八五頁八行

相同——Homology 形態學上互ニ相當スル機關ヲ互ニHomologousト謂フ互ニ相當スルコトヲ相同ト云フ

八六頁六行

パンパス——南米ノ樹木ナキ膜大ナル原野ヲ謂フ

八八頁七行

マルサス——Thomas Robert Malhus 一七六六生一八七四死、元來英國ノ僧官ナリ

九三頁三行

是ハ誤ナリト筭作教授ヨリ聞ケリ(F.D.)

九七頁四行

ハッケル——Ernst Haeckel 一八三四生一八六二以來獨國エナ大學ノ動物學教授タリ

フリッツ・ミュラー——Fritz Müller 一八二二生一八五二以來南米ブラジルニ住セリ

一〇〇頁二行

Christian Konrad Sprengel 一七五〇生一八一六死初僧ナリタレモ餘リ熱心ニ植物學ヲ研究シ爲メニ說教ヲ怠リタルガ爲メ遂ニ其ノ職ヲ失ヘリ後私塾ヲ開キタレモ終身貧困ナリキ Das entdeckte Geheimniss der Natur 即チ是處ニ記セル書ハ始メテ昆蟲ト植物受精ノ關係ヲ説ケル書ナリ

一〇一頁三行

Linna Flaym 亞麻ノ類

一〇四頁四行

ばんぢねしす——Pangensis 此ノ說ハ遺傳ノ現像ヲ説明センガ爲メ提出シタルモノニシテ二ノ部分ヨリ成ル即チ(第一)一個ノ生物ノ始ヲ成ス所ノ細胞中ニ存在スル諸ノ性質ハ各々是ヲ代表スル所ノ極小分子アリテ此ノ分子ハ細胞ノ如ク分列シ新細胞ノ分列ニ由テ起リタルモハ是ニ傳ハルモノナリ(第二)生物ノ生涯中其ノ体ノ諸部分ヨリ以上ノ分子出テ、皆種子細胞ニ輻集ストノ假定ナリ

或著者ハ此ノ假說ヲ以テダーウソン氏生涯中唯一ノ大失策ナリトスレモ是ハ餘リ過劇ノ評ナルノミナラズ極近ノ生物學上ノ思想ヲ熟知セザルノ誹ヲ免レザルガ如シ先年アムステルダム大學ノ植物學教授ドブリースガ Intracellulare Pangensis ト題セル書ヲ著セシヲ以テモ知ルベシ是ノ書中說ク所ハダーウソンノ提出シタル假說ヲ現今ニ至リテ細胞分列ノ際觀察サレタル現像ヲ基礎トシテ

再々陶治セシニ外ナラズ

一〇六頁十二行

Sir Charles Bell 一七七四生一八四二死解剖學者及ヒ生理學者

一〇七頁五行

どろせら——植物ノ名其習慣ハ下ニ明ナリ

一〇九頁十二行

Hermann Müller——獨乙ノ植物學者フリッツ、ミュラーノ兄弟ナリ

ダーウ^井ン氏自傳

理學士 五島清太郎 譯



獨乙ノ或記者ガ余ノ心及ビ人ト爲リノ發達ト是ニ加ヘテ余ガ生涯ノ
 概略ヲ記セシコト余ニ求メタレバ其求ニ應ズルコトハ或ハ余ヲ慰メ又
 事依^レバ余ガ子供等カ或ハ其ノ子供等ノ爲ニモナラムカト思ヒタ
 リ余ガ祖父ノ自ラ其心質ノ概略ヲ記シ又如何ナル考チ有シ如何ニシ
 ヲ其働ゾオシタルヤ是等ヲ記セルモノアリタルナラ實ニ余ヲ慰メタ
 ルガラト知ル余ハ左ノ記ヲ認ムルニ當テ恰モ彼ノ世ニアリテ己ノ
 生涯ヲ回顧スルモノ如クニシテ認メンコトヲ勉メタリ又斯ナスハ余
 ニ取テ六ヶ事ニ非ズ何トナレバ余ノ生涯ハ殆ント終リタルモノノ
 如シ余ハ文章ニハ少シモ注意セザリキ

余ハ一千八百九年二月十二日シユリースベリーニ於テ生レタリ而シテ
余ガ記憶中最モ早キ事ハ滿四年二三ヶ月ノ時アベルザールヘ海水浴
ノ爲メ赴キマコナリ余ハ其時ノ事ト場所ヲ側カニ記憶ス

余ノ母ハ一千八百十七年七月余ノ八歳數ヶ月ノ時死ナレタリ而シテ
余ノ母ニ就テ記憶スルコトハ其死ニ臨ミシ時ト共黒キ絨衣ト及ビ其仕
事ニ當テ用ヒタル奇狀ノて一ふるノミニ止ルハ實ニ不肖合ト云フ可
キナリ同年春シユリースベリーノ學校ニ行キ止ルコト一年余ノ傳聞セ
シ所ニ依レバ余ハ妹カセリンヨリ物事ヲ學ブコト遅カリシト而シテ余
ハ色々ノ事ニ付ケテ惡小僧ナリシト信ズ

余ノ此學校ニ至リシ時ハ既ニ博物學ヲ好ミ又物ヲ集蒐スルコトヲ嗜ミ
タリ余ハ植物ノ名ヲ明ニセンコトヲ試ミ又貝殼印章ふらんく小錢及ビ
鑽石ノ如キモノヲ總テ蒐メタリ人ヲシテ博物學者カ或ハ物好キカ然
ラサレハ客齋ナラシムル所ノ物々ヲ蒐ムルノ慾ニ余ハ甚ダ富ミタリ

而シテ此慾ノ余ガ兄弟姉妹中ニ毫モナキコトヲ見レハ余ノ生レナガラ
有セシモノナルコト明ナリ

同年中ニ舉リシ一小事ハ余ノ心中ニ銘セラレタリ其ハ蓋後ニ至リテ
余ノ良心是ガ爲メニ大ニ苦ミシニ因ルナラムト余ハ望ムナリ此事實
ハ面白シモ余ハ此少年ノ時已ニ植物ハ變遷スヘキモノナリト信ジタ
ルヲ證ストハサテモ余友(後有名ナル石衣學者及ビ植物學者トナリシ
レイトン氏ナラムト信ズ)ニ告テ曰ク余ハ種々ノ色ノツキタル水ヲ注
グコニ因リテ月下香及ビさくらそうノ類ニ種々ノ色ノ花ヲ咲カシム
ルヲ得ト是ハ固ヨリ方外ノ虛言ニシテ余ハ決シテ是ヲ實驗セタルコ
トナカリキ余ハ又此處ニ白狀スヘシ余ハ幼時好ンデ虛言ヲ構造シタリ
是ハ全ク人ヲ愕カサント欲スル念ニ本ツキタリ例ヘバ余ハ嘗テ父ノ
樹木ヨリ數多ノ高價ナル菓實ヲ盜ミ取り是ヲ樹間ニ匿シ置キ而シテ
走テ人ニ告テ曰ク余ハ或人ノ盜ミタル菓實ヲ發見シタリト

余ノ始メテ學校ニ行キシハ實ニ質朴ナル少年ナリシナラム一日ガ
一子ットト名クル少年余ヲ或菓子店ニ携ヘ行キ金ヲ拂フヲセズシ
テ菓子ヲ買ヒタリ蓋菓子屋ハ彼ヲ信シタレバナリ店ヲ出デタルハ余
彼ニ何故金ヲ拂ハザリヤト問ヒタルニ彼直ニ答ヘテ曰ク茲ニ余ガ
父ハ誰ニテモ其古キ帽子ヲ被又是ヲ一定ノ仕方ニ動かス者ニハ金ヲ
要セズシテ何物ニテモ其求ムル所ノモノヲ與フベシトノ約條ニテ此
市ニ多額ノ金ヲ還シタルヲ君知ラザルカト而シテ其動かシ方ヲ余ニ
示シタリ彼又他ノ店ニ行キ其帽ヲ是當ノ仕方ニ動かシテ菓子ヲ求メ
ケレバ勿論金ヲ拂ハズシテ是ヲ得タリ吾等兩人店ヨリ出シテ彼余ニ
告テ曰ク君若シ自ラ彼ノ店ニ其位地ヲ余ハ實ニヨク記憶セリニ行ント
欲セバ余ノ帽ヲ貸スベシ而シテ君若シ是ヲ頭上ニ是當ニ動かサバ何ニ
テモ君ノ欲スル所ノ者ヲ得ント余ハ喜ンテ此親切ナル賜ヲ受ケ其店
ニ行テ菓子ヲ求メ彼ノ古キ帽子ヲ動かシテ店ヲ出ントシタリ時ニ店

番ハ急デ余ヲ追ヒカケタレバ余ハ貴キ生命ノ爲メ菓子ヲ弄タリ余ガ
僞ノ友ガ一子ットト是ヲ見テ大聲ニテ笑ヒタルヲ余ハ實ニ愕キタリ
余ハ余ノ爲メニ曰フコトヲ得余ノ幼時ハ慈悲アリタリト然レモ是ハ全
ク余ノ姉妹ノ教訓ト實例ニ由レリ余ハ實ニ疑フ慈悲ナルモノハ元來
人間生レナガラ有スルモノナルヤ否ヤヲ余ハ卵子ヲ蒐ムルヲ甚ダ
好ミタリ然レモ決シテ一ノ巢ヨリ一個ノ卵子ヨリ多クハ取ラザリキ
但シタマ一ノ取除ケアリ是ハ蓋シ卵子ノ價值アリシニ因ルニ非ズシ
テ寧ロ余ノ俠氣ニ因セシナリ

余ハ釣ヲ甚ダ嗜ミ河或ハ池ノ岸上ニ浮キヲ見ナガラ過セシヲ幾時間
ナルヲ知ラズ余ノ管テメア^{*}ニ在シテ蚯蚓ヲ鹽及ビ水ヲ以テ殺スト
ヲ學ビタレバ爾後ハ決シテ生タル蚯蚓ニ唾セシヲナシ余ノ方法ハ時
ニ依リテ成功セザリシモ余ハ是ヲ願ミザリキ

余ノ學校ニ在シルカ或ハ其以前嘗テ甚ダ慘酷ナル所業ヲ爲シタルヲ

アリ何トナレバダマ余ノカヲ示ス爲メ犬ヲ打チタリ然レモ余ノ打シ
ハ階ヲカラザリシト信ズ蓋シ犬ハ其家ノ近邊ニ在シニモ拘ハラズ吠
ヘザリキ此所業ハ余ノ良心ニ重荷ヲ置キタリ其ハ余ノ此罪ヲ犯セシ
場所ヲ精密ニ記憶スルニ由リテ知ルベシ又此所業ノ一層余ノ心ニ懸
リシハ余ノ此時及ビ此后モ永ク犬ヲ深ク愛シタルニ因ルナラム犬ハ
余ノ愛スルヲ知ルガ如クニ見ヘタリ何トナレバ余ハ犬ヲシテ共主人
ニ離レシムルニハ至テ功ニナリタレバナリ余ハケース氏ノ學校ニ在
リシ此年中ノ事柄中タゞ今一ヲ明ニ記憶ス即チ一ノ騎兵ノ葬式是ナ
リ而シテ此兵卒ノ長靴及ビ其銃ヲ馬鞍ニ挂ケタルヲ及ビ其墓ニ於テ放
銃セシヲ皆今ニ至ルマデ明ニ目前ニ視ルガ如キハ實ニ愕シベキナリ
此時余ハ如何程詩人ノ想像力ヲ有セシカ知ラザレモ此事實ハ余ノ想
像力ヲ深ク煽動レタリ

一千八百十八年ノ夏ヨリユースベリーニ於ル博士バットラー氏ノ大

ナル學校ニ入り一千八百二十五年ノ中夏余ノ十六歳ノ時マデ同校ニ
止レリ余ハ同校ニ入舍シタリ故ニ純粹ノ學校生徒ノ生涯ヲ送ルヲ得
タリ然レドモ余ノ家マデハ辛フシテ一哩許ナリシ故一日ノ業ヲ終リ
シ後門限ニ至ルマデノ間ニ家ニ走り歸リシヲ度々アリタリ余思フニ
此事ハ余ノ爲メニ種々益アリタリト蓋余ノ家族ニ對シテノ愛情及ビ
余ノ家族ノ事ヲ思フノ念ハ是ニ由テ常ニ維持シタレバナリ余ハ學校
ニ入りシ始ノ内ハ門限ニ遅レザル爲メ疾走セシヲ度々アリタルヲ記
憶ス而シテ余ハ疾走者ナリシ故常ニ後レタルヲナカリキ然レモ疑ハ
シキトニハ熱心ニ祈リタリ而シテ若シ成功セシトハ余ノ疾走セシ
ガ爲メニ非ズシテ全ク祈禱ノ爲メナリト信シ聚々神ノ扶ヲ受ケタル
コヲ愕キタリ

父及ビ姉ノ言ニ由レバ余ハ子供ノ好マデ久シキ間獨リ散歩シタリ
ト然レモ是等ノ散歩中ニ如何ナルヲ思ヒ居タルヤ余ハ知ラズ余ハ

度々己ヲ忘ル、マデ物事ヲ思ヒタリ嘗テシユリユースベリーノ周圍ニ
アリテ當時人道ニ變ジタル古キ壘ノ上ヲ歩行シ居タル時突然歩ヲ過
チテ墜落シタリ然レモ壘ノ高サハ僅七八尺許ナリキ然ルニ僅此高サ
ヲ落ル間余ノ心中ヲ經過セタル考ハ其數實ニ愕クベキモノニシテ生
理學者ガ證スル如ク各思考ハ測リ得ベキ時間ヲ要ストノ説ニ反スル
ガ如ク見ユ尤モ此墜落ハ實ニ急ニシテ余ノ毫モ豫知セザリシ所ナリ
キ
余ノ心ノ發達ノ爲メニハ博士バットラー氏ノ學校程不適當ナルモノ
ハ非ザリシナラム蓋同校ハ全ク古語ヲ重シ少々ノ古代ノ地理及歴
史ノ外ハ他ニ何モ教ユルコトナカリキ教育ノ點ヨリ見ルルハ余ノ此學
校ニ在リ時ハ全ク空シク過シタリト謂フベシ余ハ一生涯語學ヲ學ブ
ニハ奇妙ニ不適當ナリキ同校ニ於テハ詩ヲ作ルコトヲ特ニ要シタレ
余ハ決シテ是ヲ巧ニセザリキ余ハ數多ノ友人アリシ故古詩ヲ數多集

メ是ヲ繼ギ合セテ——時トシテハ友人ノ扶ヲ借テ——如何ナル題ニモ適
合セシメタリ又前日學ビタルコトヲ暗記スルコトモ要セラレシガ余ハ是
ヲ容易ニナシタリ例ヘバ朝會堂ニアル間ニヴァーゲル又ハホーマー
ノ四十行或ハ五十行モ暗記シタリ余ハ怠惰ナラザリキ而シテ詩作ノ外
ハ概シテ言ハマ古語ヲ勉強シテ學ビ又人ノ仕事ヲ盜ミタルコトヲ余ノ
是等ノ勉強ノ中愉快ヲ感シタルハタマホレースノ詩中或モノノミナ
リキ而シテ是等ヲ余ハ深ク嘆賞シタリ
余ノ此學校ヲ去リタル時余ハ年齢ニ對シテ伎倆高クモ低クモナク又
余ガ師及ビ父ハ眞ニ通常ノ少年ニシテ寧ろ通標ヨリ下レルモノト思
考シタリト信ズ余ガ父一日余ニ告テ曰ク汝ハ銃獵犬及ビ鼠ヲ捕フル
コトノ外何ヲモ爲サマレバ自ラノ爲メ又家族ノ爲メニ大ナル耻辱ナリ
ト此言ハ余ヲ深ク悼マシメタリ余ガ父ハ余ノ知リタル人々ノ中最モ
親切ニシテ余ハ心一杯其記念ヲ喜ブナリ然レモ此言ヲ吐キタル時ハ

多分怒リタルトニシテ幾分カ余ニ對シテ不正ナリシト信ズ
余ガ在校中余ノ性質ヲ熟考スルニ將來見込ノアリタルヲハ余ハ此時
種々ノ物事ヲ強ク嗜好シ何事ニテモ面白ク感シタルヲニハ眞ニ熱心
ニシテ又總テ複雑シタル問題ヲ理解スルヲ甚ダ樂ミタルヲナリ余
ハユークリドリ或助教ヨリ教授サレタルガ其明晰ナル證ノ余ニ深ク
満足ヲ與ヘタルヲ判然記憶ス又余ガ叔父(フランシスガルトン氏ノ父)
ガ晴雨計ノヴェルニエーノ元理ヲ説明セシヲモ明ニ記憶ス暫ク理學
ノ事ハ擱キ余ノ種々ノ物事ヲ好ミタルヲニ就テ曰ハマ余ハ種々様々
ノ書ヲ讀ムヲ好メリ而シテユークスピア^{シー}ノ歷史的ノ作ニ至テハ常
ニ學校ノ厚キ壁ニ穿テタル古キ窓ニ對シテ讀ミ續ケシヲ幾時間ナリ
シヲ知ラズ余ハ又トムソンノ[Seasons]^{シーズンズ}及ビ當時出版ニナリタルバイロ
ン及ビスコットノ詩作ノ如キ他ノ詩ヲモ讀ミタリ余ノ今是等ノコソ
記シ置クハ蓋余ノ末年ニ至リテ種類ヲ論ゼズニユークスピアニ至ル

マデ總テノ詩作ヲ嗜マザルニ至リタレバナリ余ハ此ノヲ深ク悲ム
又詩作ノ話ノ序ニ謂フベキアリ曰ク一千八百二十二年ウエールスノ
境界ヲ馬上ニテ旅行セシ際深ク景色ヲ樂ムノ心始テ起リタリ而シテ
此感情ハ總テ他ノ美術的ノ樂ヨリモ最永ク續キタルモノナリ
余ノ學校ニ在シ始ノ中或少年ノ所持セル「世界ノ不思議」ト題セル書ヲ
度々讀ミ書中記セル所ノ事柄ノ實否ニ就テ他ノ少年ト諍ヒタリ余思
フニ此書ハ始メテ余ノ心中ニ遠國ヘ旅行セントノ慾望ヲ惹起シタリ
而シテ此慾望ハ後ビイグル艦ノ航海ニ由テ成就サレタリ後ニ至リテ余
ハ銃獵ヲ甚ダ好ムニ至レリ余思フニ余程此神聖ナル主義ノ爲ニ熱心
ナリシ人ナカルベシト余ハ始メテ鵠ヲ銃セシト余ノ悦甚ク爲メニ
手震ヘテ玉ヲ込ルニ難ク感シタルヲヨク記憶ス後永ク銃獵ヲ嗜ミ
遂ニ此術ニ於テハ甚ダ上手トナリタリ余ノケムブリッチニ在シト銃ノ
前ニテ銃ヲ擲ヒ此ヲ眞直ナラシムルニ勉メタリ又是ニ優リタル仕

掛ハ友人ヲシテ打火シタル蠟燭ヲ揮廻ハサシメ而シテ空銃ヲ放ツトナ
リ若シ狙ヒ正カリシナラバ燭火ハ銃ノ空氣ノ爲メ消滅セリ空銃ノ音
ヲ聞キ或助教ハ謂ヘリト曰ク「ダーウ井ノ氏ハ自室ニ於テ數時間モ馬
鞭ヲ鳴セリ何トナレバ余ハ氏ノ室ノ窓下ヲ通過スル毎ニ其音ヲ聞ケ
バナリ」ト

余ハ同窓ノ中余ノ實ニ親愛セル友數多アリタリ而シテ余ノ性質ハ常
時慈愛アリタリト信ス

理學ノ事ニ就テ謂フニ余ハ金石ヲ熱心ニ集メタリ然レモ學理的ニハ
非ザリキ余ハタゞ新名稱ヲ帶タル金石ノミニ注意シ決シテ是ヲ分類
スルコトハ試ミザリキ余ハ又少々昆蟲ニモ注意シタリト信ス何トナレ
バ余ノ十歳(一千八百十九年)時ウエールスノ海岸ナルプラス、エドウ
アーヅニ至リシト大ナル黒色及ビ赤色ノ半翅類數多ノ蛾(*Zygona*)及ビ
シユロップ州ニ棲息セザルチ、ンデラ蟲ヲ觀テ大ニ愕キタレバナリ

余ハ繼テ死タル昆蟲ヲ集メント殆ント決心シタリ何トナレバ姉ト相
談シタル後標品ノ爲メ昆蟲ヲ殺スハ不正ナリト決シタレバナリ又ウ
イト氏ノ「セルポーン」ヲ讀ミタル後鳥ノ習慣ヲ觀察スルコト甚ダ樂
ミ又此ニ就テ備忘録ヲ作りタルコトモアリタリ余ノ質朴ノ心ニテ何故
誰モ彼モ鳥類學者トナラザルカト怪ミタリ

余ノ學校ニアリシ最終ノ期ニ余ノ兄ハ連リニ化學ヲ勉強シ花園ノ道
具ヲ入レン爲メノ屋ニ其ノ實驗室ヲ造リ大凡入用ナル機械ヲ具備シ
タリ而シテ余ハ其實驗ノ際小使トシテ使用サル、ノ許可ヲ得タリ余ノ
兄ハ總テノ瓦斯ヲ製造シ又種々ノ化合物ヲ造レリ而シテ余ハヘンリー
及ビパーシスノ「化學問答」ノ如キ又其他ノ化學書ヲ注意シテ讀ミタリ
余ハ化學ヲ甚ダ面白ク思ヒ時トシテハ兄ト共ニ深夜ニ至ルマテ實驗
セヨコアリ此ハ余ノ學校ニアリシ際ノ最良ノ教育ナリ何トナレハ此
等ノ仕事ハ余ヲシテ實踐科學ノ意味ヲ實見セシメタレバナリ余等兄

弟ノ化學實驗ヲナストノ評ハ如何ニシテカ學校中ニ傳播シ此ノ如キ
ヲハ未タ嘗テアラザリシ故余ハ「瓦斯」ノ綽名ヲ得タリ又一度ハ博士バ
トラー氏ヨリ此ノ如キ無益ナルヲニ余ノ時ヲ費ストテ公ニ譴責サレ
シヲアリ時ニ博士ハ余ヲ「Poco curante」ト呼ビタリ余ハ其意ヲ解セザリ
シカバ眞ニ恐ロシキ非難ナラント思ヒタリ

余ハ學校ニアリテ徒ニ時ヲ消費セシカバ余ノ父ハ通常ヨリモ寧ロ早
キニ余ヲ學校ヨリ去ラシメ余ヲ兄ト共ニエデンボロ大學ニ贈レリ(一
千八百二十五年十月)余此處ニ止ルヲ二學年余ノ兄ハ續テ醫學ヲ研究
シタリ然レモ余思フニ兄ハ決シテ醫ヲ以テ其業トナサントハ思ハザ
リシナラム余モ又醫ヲ學バンガ爲メ同大學ニ送ラレタリ然レモ後暫
時ニシテ余ハ種々ノ細事ヨリ左ノ事ヲ確信スルニ至レリ曰ク余ノ父
ハ余ノ不自由ナシニ暮ス丈ノ財産ハ充分遺スナラムト此時余ハ現在
ノ如ク富裕ニナラムトハ決シテ思ハザリキ然レドモ此確信ハ余ヲモ

テ勉強シテ醫學ヲ修メザラシメタリ

エデンボロニ於テハ總テ講義ニ由テ教授シタリ而シテ此等ノ講義ハ
ホーブ氏ノ化學講義ヲ除テハ總テ面白カラス實ニ聽ニ堪ヘ兼タリ而
シテ講義ト讀書ト比較スルハ余ノ考ニテハ甲ニハ尠シモ得所ナシ
シテタゞ短所ノヨナリ博士ダンカン氏ノ藥物學講義ハ冬期午前八時
ニ始マリシガ今思出スモ恐ロシ博士……氏ノ人體解剖講義ハ面白カ
ラヌヲ其人物ト尠モ異ナラズ實ニ余ヲシテ嫌惡セシメタリ余ノ實地
解剖ヲ勸メラレザリシハ生涯中ノ最不幸ナリヤ何トナレバ若シ實地
解剖ヲナシタラバ余ノ嫌惡モ止ミ又將來余ノ仕事ノ爲ニハ實地解剖
ハ實ニ貴重ナル者タレバナリ此事及ビ余ノ圖畫ヲ能セザリシヲハ實
ニ改復ス可ラザル不幸ナリキ余ハ又病院ノ外科室ニ規則正シク出席
シタリ而シテ或療治ハ實ニ余ヲ痛マシメタリ余ハ今ニ至ルマデ其等ヲ
ヨク記憶ス然レモ余ハ此ガ爲ニ欠席スルナゾハ決シテ爲サザリキ此外

科實見ハ何故余ノ心ヲ引カザリレカ余ハ妙シモ解スルヲ能ハズ蓋余ノエデンボロニ來ル前年ヨリ或貧人ヲ診察シ始メタリ此等ノ貧患者ハ重ニモユリユースベリノ小兒及ビ婦人ナリキ余ハ此等ニ就テ其病及ビ徵候ヲ可成精密ニ記シ余ノ父ニ朗讀シタリ而シテ父ハ尙ホ穿索スベキ簡條ヲ持出シ又如何ナル藥ヲ用フベキヲ忠告シタリ此等ノ藥ハ余自ラ之ヲ製シタリ一時ハ余ノ許ニ來ル患者十一人モアリタリ而シテ余ハ此業ヲ以テ眞ノ愉快トナセリ余ノ父ハ余ノ嘗テ知リタル人々ノ中人物ヲ觀ルニ至テ卓レタル人ナリシガ余ニ就テ曰ク彼ハ成功アル醫トナルベレト其意ハ蓋數多ノ患者ヲ得ルトナリ父ノ説ニ由レバ成功ノ最モ重ナル元素ハ人ノ信用ヲ得ルヲナリト然レモ父ハ余ノ如何ナル性質ヲ以テ人ノ信用ヲ得ルニ適シタルモノトナセシカ余ハ知ラサルナリ余ハ又エデンボロ病院ノ外科室ニ出席シタルヲ二度アリタリ余ノ實見セシ療治ハ實ニ惡ク其中一ハ小兒ノ療治ナリシガ余ハ其尙

ホ終ラザル前ニ室ヨリ走出タリ此後余ハ再ビ該室ニ至リシヲナシ如何ナルヲノ出來スルモ余ヲシテ再ビ此處ニ至ラシムルヲ能ハザリキ蓋當時ハ尙ホクロハフォルムヲ用ヒタルヲナケレバナリ以上記シタル二度ノ療治ハ實ニ久シキ間余ノ腦中ニ遺レリ

余ノ兄ハ大學ニ止ルヲタマ一年間ナリシカバ翌年ヨリハ余ハ獨ニテ何事ヲモ爲セリ此事ハ余ノ爲メニ益アリタリ何トナレバ余ハ是ニ由テ數多ノ青年輩ト親シクナリタレバナリ此等ノ青年輩ハ皆博物學ヲ好メリ其中エインスウオースト云ヘル者アリキ此ハ后アッシリア旅行記ヲ著セシ人ナリ氏ハウエールチル派ノ地質學者ニシテ種々ノ問題ニ就テ少々ヲ知レリ是ニ反シ博士コールドスツリムハ儀式ヲ重シ深シ宗教ヲ信シ又至テ親切ナル心ノ人ナリキ氏ハ后動物學ニ關セル論文ヲ數多著セリ此他ハーデーナル青年アリタリ氏ハ多分卓越シタル植物學者トナリタルナラムニ印度ニ於テ夭死セリ又博士グラソ

トハ余ヨリ長ナルヲ多年余ハ如何ニシト親シクナリタルヤ知ラズ
 氏ハ動物學ニ關セル高尙ナル著述ヲナセシガユニパーシテ一大學ノ
 教授トナリテロンドンニ來リシ後ハ學術ノ爲ニ何ヲモ爲サズ是余ノ
 常ニ解セザル所ナリ余ハ氏ヲ熟知セリ氏ノ舉動ハ儀式バリテ甚ダ快
 活ナラザリシガ其心中ニハ實ニ熱火ノ燃ルアリタリ一日余ト共ニ散
 歩セル際ラマルク及ビ其變遷説ヲ大ニ讚稱シタリ余ハ嘿シテ其言ヲ
 謹聽シタレモ余ノ心ニハ何ノ結果モナカリキ余ハ又是ヨリ先祖父ノ
 著セル *Zoonomia* ゾオノミア ^{ヲ讀ミタレモ} 矢張何ノ結果モ生ゼザリキ然レモ斯ク早
 ヨリ此ノ如キ説ノ稱讚セラルハ余ノ后ニ至テ種ノ起原ニ於
 テ同様ノ説ヲ主張スル遠因トナリタルヤモ知レズ此時余ハ *Zoonomia*
ゾオノミア ^{ヲ大ニ嘆稱シタリ然レモ} 十年或ハ十五年後ニ至テ再ビ是ヲ讀ミシト
 余ハ失望シタリ蓋書中載スル所ノ事實ニ比較スルハ空想ノ極メテ
 多キガ故ナリ

博士グラント及ビコールドスツリーム氏ハ多ク海中ノ動物ニ注意シ
 タリ余ハ度々グラント氏ト共ニ海濱ニ赴キ汝ノ爲メ遺リタル水溜ニ
 テ種々ノ動物ヲ採集シ是等ヲ可成丁寧ニ解剖シタリ余ハ又ニ一ヘ
 プンノ漁夫ト親シクナリ彼等ノ牡蠣ノ爲メどろうるヲ引クト共ニ出
 行キ斯シテ數多ノ標品ヲ得タリ然レモ解剖ノ實驗ニ熟セザルト顯微
 鏡ノ善良ナルモノヲ有セザリシトニ因テ余ノ仕事ハ實ニ拙ナリキ是
 ニモ拘ハラズ余ハ一ノ面白キ發見ヲナシ一千八百二十六年ノ始プリ
 ニ一會ニ於テ簡單ナル論文ヲ讀ミタルヲアリ此發見ハ即チ當時所謂
 ふらすどら^{*}ノ卵ハ毘毛ニ由テ獨立ノ運動ヲナシ取リモ直サズ幼蟲ナ
 ルトノヲナリ此外又 *Fucus loreus* フカスロウス ^{ノ幼草ト假定サレタリ} 細小ナル圓
 球ハ *Pontobdella muricata* ポントオベッダムリカタ ^{ノ卵囊ナルヲ} 證明セリ

ブリニ一會ハ(余ノ信ズル所ニ由レバ)教授ゼームソン氏ノ獎勵シ且始
 メシモノナリ會員ハ皆學生ニシテ博物學ニ就テ論文ヲ讀ミ又是チ討

論セシタメ大學ノ審ニ於テ集會セタリ余ハ常ニ出席シタリシガ是ガ爲メ余ノ熱心ヲ増シ又新ナル好友ヲ得ル等種々ノ益アリタリ一タハ青年起立シ赤面シテ久シク訥リシ後漸ヤク聲ヲ發シテ曰ク會頭一余ハ余ノ將ニ言ントセシヲ忘レタリト同人ハ眞ニ困却ノ至リニ見受ケラレタレバ誰モ是ヲ慰ムル一言ヲモ出スヲ能ハザリキ此會ニテ朗讀シタル論文ハ出版セザリシカバ余ハ余ノ論文ノ公ニセラルヲ見ルノ愉快ヲ得ザリキ然レモ博士グラント氏ハ其有名ナルふらすどらニ就テノ論文中余ノ發見ヲ記セリト信ズ

余ハ又ローヤル醫學會ノ會員ニシテ常ニ其會ニ出席シタリ然レモ其論說スル所ノ問題ハ全ク醫學ノミニ關シタレバ余ハ餘リ注意セザリキ其論說スル所ハ多ク無益ノ事ナリキ然レモ中ニハ能辯ナル人モアリタリ就中サー・ジ・エー・ケイ・シャトルウ・ホースハ最ナル者ナリキ博士グラント氏ハ時々余ヲ伴ヒテウ・エール子ル會ニ行ケリ此會ニテハ博

物學ニ關シテノ論文ヲ朗讀シ又是ヲ討議シ而後是ヲ「記事」ニ出版セリ余此會ニ於テ「ジョ・ボン」氏ノ北わめりかノ鳥類ノ習慣ニ就テノ面白キ演說ヲ聞ケリ時ニ「ハウ・カーター」ト「トントン」氏ヲ誦リタレモ此ハ少シク當ヲ失ヒタルガ如シ此序ニ記スベキヲハウ・カータート「トントン」共ニ旅行シタル一黑人當時エデンボロ府ニ住シ鳥類ノ剝製ヲ以テ其業トナセリ同人ハ此術ニ甚長シ少々ノ報酬ヲ受ケテ余ニ其術ヲ授ケタリ而シテ同人ハ眞ニ愉快ニシテ且伶俐ナル人ナリシカバ余ハ是ト共ニ談話シナガラ時ヲ移セシマ度々アリタリ

リヲナード、ホーナー氏ハ嘗テエデンボロノローヤル、ツサエターニ余ヲ伴ヘリ時ニ余ハサー・ウ・ホルター、スコットノ會長ノ席ニアルヲ見タリ氏ハ此ノ如キ位地ニアルニ甚ダ不適當ナリト辨解シタリ余ハ氏及ビ全會ニ對シテタマ敬虔ノ心ノミナリキ然而シテ余ノ數年前同會及ビローヤル醫學會ノ名譽會員ニ撰舉サレタル所余ノ甚ダ心ニ感シタル

ハ蓋青年ノ時此等ノ會ニ出席シタルガ故ナラム當時若シ余ニ「汝ハ他日
 是等ノ會ノ名譽會員トナルベシ」ト告グル人アリクワバ余ハ是ヲ擴
 ケテ「汝ノ言ハ尙ホ余ハ他日英國ノ王タラムト云フガ如シ」ト答ヘシナ
 ラム

余ノエデンボロ滯在中第二年ニ於テハ……氏ノ地學及ビ動物學講義
 ニ出席シタレモ是等ハ面白カラヌコト此上ナク是ニ由テ得タルコトハ余
 ガ生ル間ハ決シテ地學ニ關スル書ヲ讀マズ又決シテ地學ヲ修メザル
 ベシトノ決心ナリキ然レモ余ハ此學ヲ哲學的ニ論ズルニ於テハ決シ
 テ之ヲ嫌ハザリキ蓋シユロップ州ノコットン氏ハ岩石ニ就テ博識ナ
 ル人ナリシガ氏嘗テ「ユリニースベリー市ニ於テ鐘石ト稱スル大ナ
 ル迷走岩石ヲ余ニ示シタリ且告テ曰ク此ノ如キ岩石ハカムパーラン
 ド或ハ蘇國ニ至ルコト非ザレバ決シテ此近邊ニ於テ見ザル所ナリ且世
 界ノ終ニ至マデ誰モ決シテ此石ノ由來ヲ説明スルコト能ハザルベシト氏

ノ言ハ深ク余ノ心ニ銘シタリ故ニ後岩片ヲ運轉スルニ於テわいすべ
 るぐノ甚有力ナルコトヲ讀ミタル所余ハ實ニ愉快ヲ感シ且地學ノ進歩
 シタルヲ甚悦ビタリ又嘗テ教授ノサリスベリークレイグニ於ル野外
 講義ニ扁桃狀ノ側ヲ有シ其左右ノ岩層ハ皆鞏固ニナリタル古岩脈ヲ
 指シ四面皆火山石ナルニモ拘ハラズ是ハ岩石間ノ裂目ガ上ヨリ沈積
 ニ由テ充タサレタルモノナリ是等ヲ以テ熔解シタル岩ノ下ヨリ注入
 シタルモノトナス人アルハ實ニ可笑キ事ナリト此ノ如キ講義ヲ思出
 ス所ハ余ノ決メテ地學ヲ修メザルベシト決心シタルハ毫モ愕シベキ
 コトニ非ズ

……氏ノ講義ニ出席セシヨリシテ余ハ博物館ノ取締ナルマックギリヴ
 レー氏ト懇意ニナリタリ氏ハ后ニ至リテ蘇國ノ鳥類ニ就テ大ナル長
 書ヲ著ハセシ人ナリ余ハ氏ト共ニ博物學上ノ談話ヲナセシコト度々ア
 リタリ而シテ氏ハ余ニ甚ダ親切ナリキ氏ハ亦余ニ珍ラシキ貝ヲ贈レリ

蓋余ハ此時海ノ貝類ヲ集メ居タレバナリ然シ余ハ至テ是ニ熱心セシニハアヲズ

此二年間ノ夏期休業ハ全ク遊興ニ費シタリ然レトモ余ハ常ニ二三ノ書ヲ携ヘ是等ヲ悦讀シタリ一千八百二十六年ノ夏余ハ二人ノ友ト共ニ背囊ヲ背ニシテ北ウエールスヘ徒行セリ我等ハ毎日殆ンド三十哩歩行シタリ又一日スノードン山ニ登リシヲアリ余ハ亦余ノ妹ト共ニ北ウエールスニ馬上ニテ旅行セリ此時ハ一人ノ僕ヲ從ヘテ我等ノ衣類ヲ擔ハシメタリ秋期ハ大抵ウードハウスニ於ルヲウエン氏ノ宅及ビメアーニ於ル叔父シチアス氏ノ宅ニテ銃獵ヲナシタリ余ハ銃獵ニハ實ニ熱心ニシテ朝出立前一分間モ消費セサランタメ常ニ獵靴ヲ余ノ寢床ノ傍ニ裝ヒ置キタリ一度余ハ黒鳥ノ獵ノ爲メメアー僻地ヘ夜明前ニ達セシヲアリ是ハ八月二十日ノ事ナリシ而後余ハ案内者ト共ニ茂生セル灌木及ビ若キ檜樹ノ中ヲ力走シタリ

余ハ全年中銃ヲタル鳥類ノ精細ナル記録ヲナセリ一日ウードハウスニ於テ長男ナルキヤブテン、チーウエン及ビ其從弟ナルメシヤ、ヒル氏(后ロード、バーウヰ)ト共ニ銃獵セシト余ハ甚ク愚弄サレタリト思考セリ何トナレハ余ノ放銃ヲテ當レリト思フ度ゴトニ兩人ノ中其銃ニ仕込ム爲メ且呼デ曰ク其鳥ハ君ノモノニ非ズ余ハ君ト同時ニ放銃シタリト而シ案内者モ又其故意ニ出デタルヲ知リ兩人ヲ扶ケタリ數時間ノ后兩人余ニ告グルニ其戯ナルヲ以テセリ然レモ余ニ取リテハ尠モ戯ニ非サリキ何トナレバ余ハ數多ノ鳥ヲ銃シタレモ其幾何ナルヲ知ル能ハス余ハ常ニぼたんノ穴ニ結ビ付ケタル絲ヲ結節シテ余ノ銃シタル鳥ノ數ヲ記シタルヲ兩人ハ目付ケテ此戯ヲナセシナリ余ハ實ニ甚ク銃獵ヲ好ミタリ然レモ余ハ密ニ自ラ愧ヂタリト思フ何トナレバ余ハ常ニ銃獵ヲ以テ智力的ノ遊ト爲シテ可ナリト自ラ論ヲタレバナリ蓋鳥ヲ見出シ又犬ヲヨク取扱フニハ中々判斷力ヲ要ス

一千八百二十七年秋期余ノメア―ニ在リシト余ハサー、ジエームス、マッ
 キントッシユニ會セリ氏ハ余ノ知レル人々ノ中最モ卓レタル談話家
 ナリ後人アリ余ニ告ゲテ曰ク「マッ」ク氏ハ彼ノ青年ノ中ニ何カ余ノ注
 意ヲ惹クモノアリト曰ヘリト余ハ是ヲ聞テ實ニ誇リタリ氏ノ此言ヲ
 ナシタルハ蓋余ノ氏ノ言々ニ注意シテ聽キタルガ故ナルヘシ是余ハ
 此時氏ノ長シタル史學、政治學及ビ倫理學ノ如キモノニ就テハ實ニ無
 識ナルヲ恰モ豚ト異ナルヲナカリシ故ナリ有名ナル人ノ賞言ヲ受ル
 ハ固ヨリ虚榮ノ心ヲ惹起ス恐アレトモ青年ニ取リテハヨキ事ナリト信
 ズ蓋是ヲテ其方向ヲ過タザラシムルニ與リテ大ニ力アレバナナリ
 余ノ斯ク二三年續ケテメア―ニ至リシ其間ハ銃獵セズトモ實ニ愉快
 ナリキ此處ノ生活ハ誠ニ自由ナリ場所ハ散步或ハ馬乘ニ甚ダ適シ又
 夕刻ニ至レバ面白キ談話多クアリ而シテ是等ノ談話ハ數多ノ家内話ト

異ナリテ一個人ニ關スルヲハ餘リナカリキ又是ニ伴フ音楽モアリタ
 リ夏期ニハ家族一同古キ玄關ノ階段ニ坐セリ前ニハ花園アリ家ニ對
 スル樹木鬱蒼タル險岸ハ湖ニ映シ又此處彼處ニ魚ノ水面ニ浮ブアリ
 或ハ水鳥ノ游泳スルアリタリ是等ノメア―ニ於ル晚景ホド余ノ心ニ
 深ク銘ゼエレタルモノハアラサルナリ余ハ又叔父ジョースチ愛シ又
 敬シタリ叔父ハ沈黙ニシテ自ラ包メル人ナリシガ余ニ對シテハ時々
 包ミ匿サズニ談話サレタリ氏ハ實ニ判斷明晰ニシテ正直ナル人ノ模
 範ナリ余思フニ世界中如何ニ有力者ト雖モ氏ヲシテ其正直ナリト思
 考セル方向ヨリ一寸モ變セシムルヲ能ハザルベシト余ハ心中常ニホ
 レースノ有名ナル詩ヲ以テ氏ニ擬シタリ余ハ今其詩ヲ忘レタルガ詩
 中「怒レル暴君ノ顔モ云々」ノ語アリ

ケムブリッヂ(自一千八百二十八年—至一千八百三十一年)—余ノエテ
 ンボロニ二學年間に在リシ後父ハ余ノ醫士トナルヲ好マサルヲ發

明セルカ然ラザレバ是事ナ姉妹ヨリ傳聞シ余ノ僧侶トナラントヲ發言セリ余ハ當時ノ如クニシテ行カバ終ニハ只ダ遊樂ノミチ事トスル懶惰者トナラント思ヒ是非難サレシハ是當ノコナリキ余ハ暫時思案ノ時ヲ乞ヒタリ何トナレハ余ハ此時神學上ノ問題ニ就テハ眞ニ少シチ知リシモ余ノ傳聞シ又自ラ此問題ニ就テ讀書セシ所ヲ以テ考フルトハ英國々教ノ信仰ノ箇條ヲ咸ク信ズルニハ聊カ躊躇セタレハナリ其他ノ點ニ於テハ余ハ田舎ノ僧侶トナルコト好メリ此故ニ余ハピアーツン氏ノ「信仰ノ箇條」及ビ其他數冊ヲ讀メリ而シテ當時余ハ聖書ハ每言僞ナク言葉通り皆眞ナリト確信セシ故吾ガ國教ノ信仰箇條ハ充分眞理トセサル可ラスト自ラ論ジタリ

余ノ一時ハ宗教正統派ノモノヨリ痛ク攻撃サレタルコトヲ願ミレバ余ノ昔僧侶トナラント決心シタルコトアリシハ可笑シキコトナリ又余ノ此決心及ビ父ノ希望ハ決シテ判然止メタルモノニ非ズタマ余ノケムブ

リッヂヲ去リテビーグル艦ニ乗船セシト共ニ自ラ消滅セシモノナリ人相學者ニシテ若シ信ズベキモノナラバ余ハ或點ニ於テハ甚ダ僧侶トナルニ適セリ數年前獨乙ノ或精神學會ヨリ連リニ書ヲ贈リテ余ノ寫眞ヲ乞へリ而シテ其後同學會ノ記事ヲ贈附セタルヲ見ルニ余ノ頭ノ形ハ公然討論ノ問題トナリ或討論者ハ余ノ頭ニハ尊敬ノ部分大ニ發達シテ十人ノ僧侶ニ匹敵スヘシト公言シタリト

余ハ僧侶トナルニ定マリタレバ余ノ英國二大學ノ孰レカへ行テ學位ヲ得ルコトハ必要トナレリ然レモ余ノ小學校ヲ去リタル後嘗テ古語ノ書籍ヲ緝キタルコトナケレバ余ノ甚ダ失望セヨコトニハ其二年間ニ余ハ嘗テ學ビタル古語ヲ咸ク或二三ノギリシヤノ文學ニ至ル迄忘却シタリ是ハ或ハ信ズ可ラサルガ如ク見ユルモ知レサレモ事實ナリ故ニ余ハ定時即十月ケムブリッヂニ行カズシテシユニユースベリニ止マリ私ニ教師ニ就テ受教シタリ而シテケムブリッヂニ至リシハクリスマス休業ノ

后即チ一千八百二十八年ノ始ナリキ余ハ速ニ小學校ニテ學ブベキ古語ノ知識ヲ回復シホーマー及ビギリシヤ語聖書ノ如キ容易キ書ヲ反譯スルニ至レリ

余ノケムブリッチニ在リシ三年間學課上ニ於テハ虛シク消費セシテ毫モエデンボロ及ビ小學校ニ於ルト異ナラザリキ余ハ數學ヲ試ミタリ又一千八百二十八年ノ夏ハ私師ト共ニバーマウスニ行ケリ然レモ余ノ進歩ハ實ニ遅カリシ余ハ實ニ數學ヲ嫌厭シタリ是主トシテ余ノ代數初歩中何モ意味アルヲ發見スルヲ能ハザリシニ因レリ余ノ不忍耐ナリシハ實ニ愚ナリキ又余ハ少クとも數學中主ナル元理ヲ學バザリシヲ悔フ蓋是等ヲ學ビタル人々ハ非常ノ知識ヲ有スルガ如ク見ユレバナリ然レモ余ハ決シテ數學家トナルヲ能ハザリシト信ズ古語ニ就テ曰フニ余ハ二三ノ規則上欠席ヲ許サレザリシ講義ニ出席スルノ外何チモ爲サマリキ又是等ノ講義ヲ聽クト云フモ殆ンド有名無實ナリ

キ第二年中余ハ小試験ヲ經過スル爲メ二三月間勉強セリ而シテ小試験ハ容易ク終ヘタリ又末年ニハB.A.ノ學位ヲ得ンカ爲メ中々勉強シタリ此時余ハ古語及ビ多少ノ代數及ビユークリッドヲ仕立上ゲタリ而シテユークリッドハ余ノ小學校ニ在リシト同様ニ余ニ愉快ヲ與ヘタリ又B.A.ノ試問ヲ首尾ヨク終フルニハペーレーノ「基督敎證據論」及ビ同氏ノ「倫理學」ヲ學ブニ必用ナリキ是等ヲ余ハ充分ニ用意セタリ而シテ余ハ「證據論」ヲ咸ク記憶ヨリ書述スルヲ得タリト信ズ但シ文章ニ至リテハ決シテペーレー氏ノ如ク明瞭ナルヲ能ハザリシナラム此書又同氏ノ「自然神學」ノ論理ノ余ニ愉快ヲ與ヘタルハ恰モユークリッドノ如クナリキ是等ノ書ヲ注意シテ勉強シ決シテ徒ニ暗誦セシコナカリシハ余ノ敎育中學課上ヨリ得タル唯一ノ利益ナリト當時自ラ感シ又常ニ自ラ若思ヘリ當時余ハペーレー氏ノ前提ノ眞非ヲ問ハズ是等ヲ眞ナリト信シ其長ク綴續セル議論ヲ深ク悦ビ又是ニ因テ確信ヲ得タリ

ベーレー氏ノ書ニ就テノ試問ヲヨク答ヘニュークリッドヲヨク解釋シ
 又古語ニテ落第スルコナカリシカバ余ハ ^{ナイ}of ^{ボロイ}polton 即チ名譽ヲ受ケザ
 ル人々ノ中可ナリノ位地ヲ得タリ然レモ奇ナドコニハ余ハ何番ナリ
 シヤ記憶セズ多分五番十番十二番ノ中孰レカナラント信ズ
 大學ニ於テハ種々ノ學科ニ就テ講義アリテ出席ハ隨意ナリキ然レモ
 余ハエデソボロノ講義ニ甚ク嫌惡シタレバヒデウ井ク氏ノ能辯ナル
 面白ギ講義ニスラ出席セザリキ若シ此時出席シタラソニハ余ハ實際
 地學者ニナリタルヨリ一層早ク此學ヲ修メシナラハ是ニ反シテ余ハ
 ヘンスロー氏ノ植物學講義ニ出席シ其極メテ明晰ナルト其例ノ感服
 スベキヲ大ニ好ミタリ然レモ余ハ植物學ヲ修メタルニハ非ズヘンス
 ロー氏ハ常ニ其生徒(其中ニハ學生中長者連モアリタリ)ヲ率ヒ徒行或
 ハ車ニテ遠方ノ野外散步ヲナシ又ハ小舟ニテ河流ヲ下リ途中出逢
 タル希有ノ動植物ニ就テ講義シタリ是等ノ野外演習ハ實ニ愉快ナリ

キ

後ニ至リテ明白ナルガ如ク余ノケムブリッヂ暮シハ幾分カハ賞スベ
 キ所アリタレモ時間ヲ無益ニ消費シタルハ實ニ悲ムベキコナリ而シ
 テ余ノ時間ヲ費シタルハ徒ニ是ヲ消費シタルヨリ尙ホ甚シキコアリ
 余ノ銃獵ヲ甚タ嗜ミ又獵ヲナスコ能ハザルモハ田舎ヲ馬上ニテ行ク
 コヲ嗜ミシヨリ余ハ一ノ遊ビ連中ニ陥リ此連ノ中ニハ不取締ノ下等
 ナル青年モアリタリ吾等ハ度々夕刻共ニ食事ヲ爲スヲ習慣トナシタ
 リ此中間ニハ固ヨリ一層上等ノ人モアリタレモ吾等ハ時トシテハ過
 度ニ飲酒シ其後囂シク歌ヒ又かるたヲ爲シタリ余ノ此ノ如クニシテ
 數多ノ日夜ヲ消費シタルハ深ク愧ヅベキコト自ラ知ル然レモ余ノ友
 ノ中或者ハ實ニ愉快ニシテ且吾等總テ勇ミ居タレバ余ハ此時ヲ回顧
 シテ愉快ニ感セザルヲ得ザルナリ
 然レモ余ハ此時又全ク性質ヲ異ニヒル友人數多アリタルヲ思ヒテ喜

べリ余ハ後卒業ノ時上位ヲ占メタルウヰトレイト至テ親密ナリキ而
 ノ余等ハ常ニ共ニ散歩シタリ氏ハ余ヲシテ書及ビ善長ナル彫刻ヲ嗜
 ムニ至ラシメタリ余ハ此等ヲ二三購ヒタリ余ハ度々フヰツウヰリヤム
 館ニ至レリ而シテ余ノ判別力ハ可ナリ正シカリシト信ズ何トナレバ余
 ハ確ニ最上ノ書ヲ稱揚シ是ニ就テ老ヒタル番人ト論シタレバナリ又
 サ、ジヨモニア、レーノールツノ著書ヲ悦讀シタリ此嗜好ハ余ノ生レ
 ナガラ有セシモノニハ非ザリシモ多年ノ間續キタリ又ロンドンノナ
 シヨナル館ノ數多ノ書ハ余ニ大ナル快樂ヲ與ヘタリ就中セバステア
 ンデル、ビナムボノ書ハ余ノ心中ニ高大ノ觀念ヲ惹起シタリ
 余ハ又唱歌組ニ入りタリ是ハ後級中ニテ上位ヲ占メタル余ノ親友ハ
 ーバート氏ニ由レリト信ズ是等ノ人々ト友ニナリ又其樂器ヲ引ク
 聽クニ由リ余ハ深ク音樂ヲ嗜ムニ至レリ而シテ日々散歩ノ時ニハ必ズ
 キング大學ノ會堂ノ唱歌ヲ聞ク豫ニ時刻ヲ擇ビタリ此唱歌ハ余ニ非

常ノ愉快ヲ與ヘ余ノ脊骨ヲシテ戰慄スルニ至ラシメタルコアリ余ノ
 此ノ如ク音樂ヲ嗜ミタルハ決ノ偽善ニ出デタルニモ非ズ又人ヲ徒ラ
 ニ摸シタルニ非ズト確信ス何トナレバ余ハ獨ニテキング大學ニ至リ
 タルコモアリ又歌人ヲシテ余ノ室ニ至ラシメタルコアレバナリ然ル
 ニ余ノ耳ハ至テ鈍ク紛音ヲ識別スルコ能ハズ又調子ノ時ヲ守リテ是
 ヲ口中ニテ歌フコ能ハズ余ノ音樂ヲ嗜ミタルハ實ニ解ス可ラザル事
 ナリ

余ノ友ハ此事ヲ知り時トシテハ慰ノ爲余ニ試験ヲ施シタリ此試験ハ
 通常ヨリモ多少急ニ或ハ緩ニ樂器ヲ鳴ラスルニ於テハ幾何丈余ハ調
 子ヲ識認スルコヲ得ルヤヲ定ムルニアリタリ此ハ如ニシテ、^{ゴッドセイブ}the King^ザ ヲ彈ズル時ニハ實ニ余ヲシテ困却セシメタリ余ノ外ニ今一
 人余ノ如ク耳ノ鈍キ人アリタリ同人ハ奇怪ニモ少シ笛ヲ吹キ得タリ
 一度余ハ音樂試験ニ於テ同人ニ勝チタルコアリタルガ其時ハ實ニ凱

旋シタルガ如キ心地セリ

然レモ余ノケムブリッヂニ在リシ間甲蟲ヲ採集スル程余ノ熱心ナリシ事又余ニ愉快ヲ與ヘタル事ハ非ザルナリ是ハ只ダ蟲ヲ集蒐スルノ熱情ニ起因シタルモノナリ何トナレバ余ハ是等ヲ解剖シ或ハ書中ノ記載ト比較スルコトハ稀ナリキ然レモ如何ニカシテ皆名ヲ付ケタリ余ノ熱心ノ一例ヲ舉グニ一日或古キ樹皮ヲ剝ギシト二個ノ稀有ノ甲蟲ヲ發見シタレバ兩手ニテ一個ヅ、之ヲ攫ミタリ斯タル後又一個ノ新ナルモノヲ見付タレバ是ヲ失ハシテハ實ニ堪ヘ難カリシカハ先ニ右手ニ持シモノヲ口ノ中ニ抛ケ込ミタリ嗚呼悲ムベシ甲蟲ハ非常ニ惡辛ノ液ヲ吐出シテ余ノ舌ヲ燒キタレバ余ハ餘儀ナク之ヲ吐出ヌタリ而シテ吐出シタルモノモ終ノモノモ兩方トモ失ヒタリ

余ハ採集ニハ大ニ成功シ又二ノ新法ヲ工夫シタリ即チ冬間ハ人夫ヲ雇ヒテ古木ノ表面ヨリ苔ヲ剝取リテ是ヲ糞ニ入レシメ又沼ヨリ茅ヲ

持來ル小舟ノ底ヲ搜索セシメリ斯クシテ數多ノ新種ヲ得タリ余ノ始メテステーション氏ノ英國六足蟲ノ圖解中ニシ、ダーウキンウ氏ノ捕獲スル所ナリトノ言葉ヲ見タルハ余ノ感情恰モ魔ニ付カレタル時ノ如ク如何ナル詩人ノ其初作ノ出版ヲ見テ感ズル其喜モ余ノ此時ノ喜ニハ比ス可ラザルベシ余ノ昆蟲學ヲ始メタルハ余ノ再從兄ナルウダーウキンブオクス氏ニ因レリ氏ハ當時クライスト大學ノ學生ニシテ余トハ非常ニ親密ナリキ後ニ至リテ余ハトリニチー大學ノアルベルトウエイ氏ト共ニ採集ニ出デタリ氏ハ其後有名ナル古物學者トナレリ又同大學ノハトムブロン氏ト共ニ出デタルコトモアリ氏ハ後高位ノ農學家大ナル鐵道會社長及ビ國會ノ議員トナレリ是ニ由テ觀レバ余ノ甲蟲ノ採集ヲ嗜ミタルハ幾分カ將來ノ成功ノ前徵トナリタルガ如シ——トハサテモ

余ノケムブリッヂニ於テ捕ヘタル甲蟲ノ中或モノハ實ニ深ク余ノ心

ニ銘シタルハ余自ラ愕ク所ナリ余ハ愉快ナル採集ヲ爲シタル所ノ棒
 或ハ古木或ハ河岸ノ模様ヲ精密ニ記憶ス スナマン ナバントハイア *Panagaeus crux-major* ハ當時余
 ノ寶トナセシ所ナリ余ノダウソニ來リテ散歩セシ際路ヲ横ギリテ走
 レル甲蟲ヲ見是ヲ捕ヘタルニ直ニ其鈔シク オランダクニシヨール *P. crux-major* ト異ナレルヲ
 發見シタリ而シテヨク是ヲ調べタルニ オランダクニシヨール *P. quadripunctatus* ナルヲ分リタリ
 是ハ先者ノ變種或ハ甚ダ近キ種ニシテタダ全體ノ形ニ於テ鈔シク異
 ナリタル所アルノミナリ余ハ今ハ昔トナリタル當時生キタル *Licinus*
 ナ見タルヲナシ此蟲ハ素人ニハ數多ノ カブリ *Carabidae* ニ屬スル甲蟲ト少シ
 モ異ナルヲナキガ如シ然レモ余ノ子供等ハ此處ニ於テ該蟲ヲ一個捕
 ヘタルニ余ハ一見シテ其余ニハ新シキヲ認メタリ然ルニ余ハ二十年
 間ハ英國ノ甲蟲ヲ見タルヲナカリキ
 余ハ未タ余ノ將來ノ方向ヲ最モ影響シタルモノヲ記セズ是ハ余ノヘ
 ンスロー教授ト友トナリタルヲナリ余ノケムブリッヂニ來ラザル前

既ニ余ノ兄ヨリ氏ノ總ベテノ科學ヲ修メタル人ナルヲ傳聞シタレ
 バ余ハ初メヨリ氏ニ對シテ敬虔ノ心ヲ懷キタリ氏ハ一週ニ一度ヅ、
 客ヲ接待シタリ其夕ニハ總ベテ科學ニ志アル學生及ビ大學中ノ先進
 者ハ皆集會シタリ余ハ久カラズシテフオックス氏ノ紹介ニヨリテ招待
 ナ受ケタリ余ハ速ニヘンスロー氏ト親シクナリケムブリッヂニ止マ
 リシ後ノ半ハ氏ト共ニ殆ソド毎日長キ散歩ヲナシタリ故ニ學生ノ或
 モノハ余ヲ指シテヘンスロー氏ト共ニ行ク人ト名ケタリ又夕刻ニハ
 度々氏ノ家族ト共ニ食事センヲ求メラレタリ氏ハ植物學昆蟲學化
 學金石學及ビ地學ニ實ニ博識ナリキ氏ノ最モ樂トセシハ久シキ精密
 ナル觀察ヨリ結局ヲ論定スルヲナリキ氏ノ判斷力ハ卓越シ又氏ノ全
 體ノ精神ハヨク鈎合ヲ得タリ然レモ誰モ氏ヲ以テ發見的ノ才ニ富ミ
 タル人ナリトハセザルベシト信ズ
 氏ハ深ク宗教ヲ信シ又異端ヲ惡ムヲ甚ク一日余ニ告テ曰ク今三十

九ノ信仰箇條ノ一ニテモ變更サレシハ余ノ悲甚シト氏ノ德質ハ如何ナル點ニ於テモ感服スベシ虚榮ヲ求ムルナゾ及ビ其他ノ卑ムベキ情ハ毫モナシ氏ノ如ク自己及ビ自己ノ利益ニ付テ考ヘザル人ナ余ハ未ダ見タルヲナシ氏ノ氣質ハ善良ニシテ煽スベカラズ其人ヲ待スルヤ實ニ人ノ心ヲ得テ尊敬ヲ現ハシタリ然レモ若シ惡行ヲ見ルモニハ深ク悲リテ斷行ヲナスソ力ハ充分アリタルヲ余ハ目撃シタリ

一日ケムブリッヂノ市中ヲヘンスロー氏ト共ニ歩行セルト實ニ佛國革命ノ際ニデモアルベキ恐ルベキ行ヲ見タリ二人ノ屍盜賊捕縛サレテ牢屋ニ至ル途中暴徒是ヲ巡查ヨリ奪ヒ其足ヲ以テ泥中及ビ石アル道ヲ引ヅレリ其體ハ頭ヨリ足ニ至ルマデ泥ニテ蔽ハレ其面ハ石アル道ヲ引ヅラレテカ或ハ蹴ラレテカ流血淋漓タリキ其模様ハ恰モ死體ノ如クナリシ然レモ群集ノ餘リ多キガ爲メ余ハ二三度はヲ見シノミ此時ヘンスロー氏ノ面ニ表ハレタルガ如キ深キ怨ヲ余ハ生涯中見タ

ルヲナシ氏ハ再三群集ヲ通徹センヲ試ミタレモ能ハザリキ是ニ於テ氏ハ知事ノ許ヘ急ギ行キタリ又余ニ告テ氏ニ從ハズシテ數多ノ巡查ヲ呼ビ來レト曰ヘリ果ハ如何ニナリシヤ余ハ忘レタルガタマ二人ノモノハ死ニ至ラズシテ牢屋ニ贈ラレタルヲ記ス

ヘンスロー氏ノ慈愛心ノ無窮ナルヲハ氏ノ後年ニ至リテヒツチャムノ牧師トナリタルモ其配下ノ貧民ノ爲メニ企テタル數多ノ良策ニ由リテ知ルベシ余ノ此ノ如キ人ト親密ナリシハ余ノ爲メニハ無上ノ幸福ナリシ筈ナリ又余ハ實際如アリタリト信ズ余ハ一小事ヲ此處ニ記セザルヲ得ズ蓋氏ノ親切ヲ現ハセバナリ余一日濕氣アル表面ノ花粉ヲ觀察セル際花粉管ノ突出セルヲ見タレバ直ニ走リテ氏ニ余ガ愕クベキ發見ヲ通知シタリ余思フニ如何ナル植物學ノ教師ト雖モ余ノ斯ノ如キ通知ヲ爲サン爲メ斯ノ如ク急ギタルヲ見テ必ズ笑フベシト然レモヘンスロー氏ハ此現像ノ眞ニ面白キヲ認メ且其意味ヲ説明サレ

タリ然レモ又余ヲシテ此事實ノ既ニ熟知サレタラシムル明解セシメタレ
バ余ハ毫モ慚愧ヲ覺フルコトナク反テ自ラ此ノ如キ著シキ現像ヲ發見
シタルヲ喜ビ且以後ハ決シテ己ノ發見ヲ通知スルニ斯ノ如ク急ガザ
ルベシト決心セタリ

博士ヒューエル氏ハ時々ヘンスロー氏ヲ訪ヒタル名人中ノ一人ナリ
シガ余ハ度々夜氏ト共ニ歩行シテ歸宅セリ氏ハ余ノ知人中サレ、ジエ、
マクキントツシユ氏ニ次テ重要ナル問題ニ就テ論ズルニ尤モ巧ミナル
ナ人リキ後博物學ニ關シテ或優レタル論文ヲ著述シタルリヲナード、
ジエニンス氏ハ聚々ヘンスロー氏ト共ニ止マレリ但ヘンスロー氏ハ
氏ノ義兄ナリキ余ハフエンス(スツアッファム、バルベック)ノ境界ナル
氏ノ住居ヲ訪ヒ博物學ニ就テ種々談話シ或ハ共ニ散步シタリ余ハ又
余ヨリ年老タル人ニ別ニ科學ニ志セルニハ非ザレドモヘンスロー
氏ノ友タリシ人々ト相識ニ至レリ其中ノ一人ハジューサス大學ノ助教

ナル蘇國人サーアレキサンダーラムセー氏ナリ氏ハ誠ニ愉快ナル人
ナリシガ早ク死セリ又其他後ヒアーホードノ副監督トナリ貧民ヲ教
育スルニ由テ大ニ其名ヲ舉ゲタルドース氏アリタリ此等ノ人々及ビ
其他彼等ト同等ノ人々ハヘンスロー氏ト共ニ遠ク田舎ニ出行クコトア
リタリ余ハ共ニ行クコトヲ許サレタルガ實ニ愉快ナリキ

當時ノ事ヲ回顧スルニ余ハ此時何カ通常ノ青年ニ卓越シタル所アリ
タリト信ズ然ラザレバ此ノ如ク余ヨリ年長ク學問ニモ遙進ミタル人
々ハ決シテ共ニ交ハルコトヲ余ニ許サザリシナラム固ヨリ余ハ自ラ卓
越シタル所アリトハ夢ニモ知ラザリキ一日余ノ友ターナー氏余ニ告
テ君ハ他日ローヤルツサエテノ會員トナルベシト曰ヘリ余ハ斯ノ
如キコトハ決シテアル可ラザルコトト信シタリ

余ノケムブリッヂニ在リシ末年中余ハフムボルトノ「實見記」ヲ深ク樂
ミテ讀ミタリ此書及ビサー、ジエ、ハーシエル氏ノ「物理學研究指南」ハ余

ノ心中ニ如何ニ瑣細ナリモ幾分カ理科學ノ廣大ナル組立ニ新ナル者ヲ加ヘントノ熱望ヲ惹起シタリ此二書ノ如ク深ク余ヲ影響シタル書ハ他ニアラザルナリ余ハフムホルトノ書ヨリテチリフニ關シタル長キ記事ヲ拔寫シ以上記シタル遠足中之チヘンスロー氏ラムセー氏及ビドース氏ニ朝禮シタリ蓋余ハ以前テチリフノ美ニ就テ話セシニ或人ハ彼處ニ行ント公言シタレバナリ然レドモ彼等ハ實ニ斯セントハ思ハザリシナラム然レドモ余ハ信實ニ思ヒ船ヲ周旋セン爲メロンドンノ商人ニ紹介ヲ得タリ然レドモ言フニ及バス此企ハビーグル艦ノ航海ノ爲メ消滅シタリ

余ノ夏休業ハ甲蟲ヲ採集シ或ハ讀書及ビ短キ旅行ヲナシテ消費シ秋期ハ全ク銃獵ニ費シタリ而シテ銃獵ハ重ニウードハウス及ビメア！ニ於テ爲シ時トシテハエイトンノエイトン氏ト共ニ爲シタルコトアリ概シテ曰ヘバ余ノケムブリッヂニ於テ費セシ三年間ハ余ノ幸福ナル

生涯中最モ喜バシキ時節ナリキ何トナレバ余ハ當時極メテ壯健ニシテ常ニ元氣ヨカリタレバナリ

初メ余ハクリスマス節ニケムブリッヂニ來リタレバ一千八百三十一年ノ始最終ノ試業ヲ終ヘタル後尙ホ二學期間止マルノ義務アリキ而シテヘンスロー氏ハ余ニ地學ヲ始ムル操勸告ヲタリ故ニシユロップ州ニ歸リタル後余ハ地層ノ切斷ヲ吟味シ又シユリョースベリー州ノ近邊ノ地圖ノ一部分ニ着色シタリ教授セザウ^サク氏ハ其有名ナル古岩石ニ就テノ研究ヲ遂^ン爲メ八月ノ始ニウエールスニ行ント定メタリヘンスロー氏ハ氏ニ乞ヒテ余ノ隨行者タルノ許可ヲ得タリ故ニセザウ^サク氏ハ余ノ父ノ許ニ來リテ一夜宿セリ

此夜氏ト共ニ談話セシガ此談話ノ如ク余ヲ深ク感動セシメタルモノナシシユリョースベリー州近方ノ古キ小石ノ穴ヲ吟味セル際一工夫アリ余ニ告グテ曰ク余ハ此穴ノ中ニ田舎家ノ煙筒飾ニアルガ如キ大

ナル熱帶地方ノ螺貝ヲ發見シタリト而シテ彼ハ同貝ヲ賣ラザル故余ハ實ニ此穴中ヨリ出デタルモノト信シタリ余セザウ^井ク氏ニ此事ヲ告ゲタルニ氏直チニ曰ヘラク(氏ノ言ハ正實ナリシヲ疑ナシ)其ハ誰カ穴ノ中ニ弄テタルナラム然レ^石若シ實ニ穴中ヨリ出タルモノナラムニハ地學ノ爲ニハ最モ不幸物ナリ何トナレバ余輩ノ中州ノ表面層ニ就テ知レル事實ハ總ベテ是カ爲メ空シクナルベケレバナリト是等ノ小石ノ層ハ畢竟氷寒時代ニ屬スルモノナリ而シテ余ハ後ニ至リテ其中ニ寒帶地方ノ破損シタル貝ヲ發見シタリ然レ^石當時余ハセザウ^井ク氏ノ此ノ如キ愕クベキ事實即チ英國ノ中央ニ於テ地面ニ近シ熱帶地方ノ貝殻ノ發見サレタルト云フガ如キ事實ヲ聞テ悅バザリシヲ愕ケリ蓋是ヨリ以前余ハ種々科學ニ關スル書ヲ讀ミタレ^石全体科學ナルモノハ事實ヲ分類シテ是ヨリ一定ノ概則ヲ引出スモノナリトノ考ヲ悟ラザリシナリ

翌朝我等ハランゴルレン、コンウエー、バンゴー及ビカベル、クーリグニ向テ出發セリ此旅行ニ由リテ余ハ幾分カ一國ノ地質ヲ調査スルノ方法ヲ學ビ余ノ爲メニハ確ニ有益ナリキセザウ^井ク氏ハ時々余ヲ別ニ氏ノ路ト平行線ニ贈リ余ヲシテ岩石ノ標品ヲ持還リ又地圖ニ地層ヲ記入セシメタリ氏ハ余ノ益ヲ思ヒテ斯ナシタリト確信ス何トナレバ余ハ當時氏ヲ助クルニハ餘リ無學ナリタレバナリ此旅行ニ由リテ余ハ左ノ事ノ適切ナル實例ヲ經驗シタリ即チ如何ニ著シキ現像ト雖トモ人ノ未ダ曾テ觀察セザルモノハ實ニ見遺シ易キ^ト是ナリ我等ハクウム、イドウ^{アル}ニテ數時間止マリ總ベテノ岩石ヲ注意シテ觀察シタリ蓋セザウ^井ク氏ハ其中ニ化石ヲ發見セント勉メタレバナリ然レ^石我等一人モ其近邊ニ氷河ニ屬スル現像ヲ發見スルヲ得ザリキ我等ハ平坦ニ摩擦サレタル岩石モ迷走石ノ他ノ岩石上ニ乗置カル^ハモノ又ハ廣面及ビ終極もれいん^チモ發見スルコト能ハザリキ然レ^石余ノ既

ニ數年前哲學雜誌ニ出版シタル論文中公言シタルガ如ク是等ノ現像ハ實ニ著明ニシテ焚燒シタル家屋ト雖トモ其焚燒ノ證ハ此谷中見ル氷河ノ證ヨリ確ナリトハ云フ可ラザルナリ若シ此谷ニシテ尙ホ氷河ノ爲ニ塞タサレタルニ於テモ其現像ハ當時現ニ存在スル所ノ現像ノ如ク著明ナルヲ得ザルベシ

カベル、シーリッグニ於テ余ハセザウヤク氏ニ別レ其ヨリ磁石及ビ地圖ニ由リ山ヲ越ヘテ一直線ニバーマウスニ至レリ而シテ余ノ思ヒ就キシ方向ト異ナレル道ハ決マテ之ヲ取ラザリキ斯レテ余ハ新奇ナル不墾ノ地ニ至リ此ノ如キ旅行ヲ極メテ樂トセリ余ノバーマウスニ至リシハ同所ニテ勉強ヲアル二三ノケムブリッヂノ友ヲ訪ハン爲メナリキ其ヨリ余ハ銃獵ノ爲メシコロニスベリ及ビメアリーニ歸レリ何トナレバ余ハ當時雉獵ノ初日ヲ地學又ハ他ノ學問ノ爲メニ拋棄スルハ狂人ノ所爲ナリト思考シタレバナリ

一千八百三十一年十二月廿七日ヨリ一千八百三十二年十月二日マデビーグル艦ノ航海

余ノ北ウエールスニ於ケル短キ旅行ヨリ歸ルヤ余ハヘンスロー氏ヨリノ一書ヲ得タリ曰ク海軍大佐フットロイ氏ハビーグル艦ニ博物學者トシテ報酬ナシニ乗船シ氏ト共ニ航海セムト欲スル人ニハ其自室ノ一部分ヲ貸與セント余ハ其時起リタル事柄ハ總ベテ余ノ日記ノ原稿中記載セリト信ズ此處ニハ只ダ左ノ事ヲ記シテ止マン曰ク余ハ直ニ悦ンデ此勸メヲ受ケント欲シタリ然レモ余ノ父ハ甚ダ是ニ反シテ曰ク汝若シ誰ニテモ普通ノ智ヲ有セル人ニシテ汝ニ此行ヲ勸ムル人ヲ得タルトハ予汝ニ許サント(此言ハ余ニ眞ニ幸ナリキ)故ニ余ハ同夜

ニ克ク似タルモノアルニ愕キタリ而シテ其名ヲ見ルニ曰クアルバニ
伯 チヤイ、ソブスキ、スチヤート Ch. E. Sobieski Stuart ト此ハチヤールス第二世ノ後裔ナルナリ
フ # ツロイ氏ノ氣質ハ最モ不幸ナルモノナリキ氏ハ常ニ早朝ニ氣元
悪シク其驚ノ如キ眼ヲ以テ船中何カ失ヲ見出スヲ常トセリ其時ニハ
非難スルニ尠シモ吝ムヲナカリキ氏ハ余ニ甚ダ親切ナリキ然レモ氏
ト余ハ常ニ同室ニ於テ食事ヲナスヲ以テ互ニ親密ナリタルニ此ノ如
キ親密ナル關係デハ眞ニ共ニ棲ミ難キ人ナリキ我等ハ度々諍ヒタル
ヲアリ例ヘバ航海ノ始ノ中ブラジルノバヒアニ居ルモ氏ハ奴隸買
ヲ稱揚シタリ余ハ是ヲ深ク惡ミタリ氏余ニ告グテ曰ク余ハ先刻一ノ
奴隸主ヲ訪ヒタルニ主人ハ數多ノ奴隸ヲ呼出シテ働カシムル最中ナ
リケレバ彼等ニ幸ナリヤト問ヘリ又彼等ハ自由ヲラント欲スルヤト
問ヒタルニ皆答テ曰ク否ト是ニ於テ余氏ニ問テ曰ク(恐クバ冷笑ヲ含
ンデ)君主人ノ目前ニ於テ吐キタル奴隸ノ言ヲ以テ頼ベキモノト思考

セラルヤト此答ハ氏ヲ大ニ怒ラシメタリ又余ハ氏ノ言ヲ疑ヒタルヲ
以テ以後共ニ棲ム可ラズト曰ヘリ余ハ恐クバ船ヨリ退カザルヲ得ザ
ルベシト思ヒタリ然レモ艦長ハ次官ヲ呼ビ余ヲ誹謗シタルガ故此事
ハ速ニ船中ニ傳播シタリ而シテ余ハ總ベテ砲室ノ士官ヨリ來リテ共
ニ食事スベシトノ招待ヲ受ケ大ニ満足シタリ然レモフ # ツロイ氏ハ
數時間ノ後一士官ヲ贈テ余ニ謝シ且余ノ是迄ノ如ク共ニ棲マンコトヲ
願ヒテ其寛大ナル心ノ常ニ變ラザルヲ表セリ
氏ノ人ト爲リハ數多ノ點ニ於テ余ノ觀察セシ人々ノ中最モ高尚ナル
モノナリキ

ビーグル艦ノ航海ハ余ノ生涯中最モ肝要ノ事件ニシテ余ノ方針ハ是
ニ因テ始メテ定マリタリ然ルニ此事ハ眞ニ瑣細ナル事ニ懸レリ即チ
余ノ叔父ノシユリニースベリーマデ三十哩余ト共ニ行クヲ及ビ余ノ
鼻ノ形狀ノ如キ瑣事はナリ三十哩間ヲ共ニ行クガ如キヲチナス叔父

ハ恐クハ多クナカルベシ余常ニ謂ラシ余ノ心ノ習練ハ始メテ此航海ニテ受ケタリト余ハ博物學ノ種々ノ區域ニ注意スルニ至リ是ニ因テ既ニ随分發達シタル余ノ觀察力ハ一層鋭ナルニ至レリ
 余ノ至リシ諸國ノ地質ヲ調査スルコトハ又一層余ニ取テ肝要ノ事ナリキ蓋是ヲナスニハ道理力ヲ要スレバナリ最初或新奇ナル國ヲ觀ルニ當テハ岩石ノ混沌タル有様程人ヲシテ落膽セシムルモノハアラザルナリ然レドモ其地層ノ摸樣及ビ岩石ノ性質ヲ記シ又是ヨリ出ル所ノ化石ヲ記シ又常ニ他所ニハ斯々ノ事實ヲ見出スベシト豫論スルニ因テ其國ニ恰モ光線ノ降りタルガ如クナリ其國一般ノ構造ハ多少解スベキ者トナルナリ余ハライエルノ^{*)}地學原理ヲ持行キ是ヲ注意シテ勉強シタリ此書ハ余ニ取リテハ實ニ有益ノ書ナリシ余ノ最初調査セシ所即チケープデ、ジェルデー島ノセント、ジェー、ゴー、ハライエルノ地學ヲ論ズル方法ノ當時余ノ持參セシ總テ他ノ者及ビ余ノ以後讀ミタル

モノニ遙優レルコトヲ明ニ示セリ

又此他ニ余ノ業トセシハ總テノ種類ノ動物ヲ集メ海棲ノモノハ多ク簡短ナル記載ヲナシ又粗略ニ是ヲ解剖スルコトナリキ然レドモ余ノ圖書ヲ能セザリシト解剖學上ノ知識ニ乏シカリシガ故航海中積堆シタル余ノ原稿ハ殆ンド皆無益トナリタリ斯シテ余ハ多ク時間ヲ消失セリ但シ余ノ硬殼類ヲ研究セシ時間ハ無益トナラザリキ何トナレバ余ノ後年蔓脚類ニ就テノ書ヲ成スニ當テ大ナル扶助トナリタレバナリ

一日ノ中一部分ハ日記ヲ認ムルニ費シ且總テ余ノ目撃セシモノヲ明細ニ記載スルコトニ骨折タリ是ハ實ニ益アル仕事ナリキ余ノ日記ハ又余ノ家族ニ送ル手紙トモナセリ又其内或部分ハ機ニ因テ本國へ贈リタリ

然レモ上ニ記シタル種々ノ専門的ノ勉強ハ是ヲ余ノ當時得タル所ノ

習慣即チ何事ニテモ其時爲セル所ノモノニ注意ヲ凝ラスコト及ビ忍ビ勉メテ事ヲナスノ習慣ニ比スル所ハ殆ンド其肝要ヲ失フモノナリ余ノ考ヘ又ハ讀ミタルコトハ總テ余ノ目撃セシコト或ハ以後目撃スベキコトニ直接ノ關係ヲ有スル様ナシタリ而シテ此習慣ハ五年ノ航海中暫時モ緩急セシメタルコトナカリキ余ノ考フル所ニ由レバ余ノ學術界ニ於テ爲シタルコトハ總テ此習練ニ因レリ

回顧スルニ余ノ理科學ニ對シテノ嗜好ガ總テ他ノモノヲ壓倒セシハ何故ナリシヤ知ルコトヲ得ルナリ最初ノ二年間ハ余ノ舊ノ銃獵ノ好ハ昔日ノ如ク存シテ毫モ其勢力ヲ失ハザリキ而シテ余ハ自ラ採集ノ爲メ總テノ鳥獸ヲ銃シタリ然レド次第々々ニ余ハ銃ヲ僕ニ任セ遂ニ全ク是ヲ任スルニ至レリ蓋銃ハ余ノ仕事就中國ノ地質ヲ調査スルニ妨碍ヲナセバナリ余ハ不知々々觀察及ビ論推スルノ愉快ハ熟練及ビ遊樂ノ愉快ニ遙優レルヲ覺ルニ至レリ余ノ知力ハ航海中ノ業ニ因テ

發達シタルコトハ恐クハ余ノ父ノ言ニ由リテ其實ナルコト知ラルベシ余ノ父ハ余ノ知レル人々ノ中最モ鋭キ觀察者ナリ其氣質ハ懷疑的ニシテ中々人相學ヲ信ズルガ如キ人ニハ非ザリシ然ルニ余ノ航海ヨリ歸リタル所余ヲ目シテ余ノ姉妹ニ謂テ曰ク彼ノ頭ノ形狀ハ前日ト全ク異ナレリト

航海ノ事ニ還ランニ(一千八百三十一年)九月十一日余ハフックロイ氏ト共ニ一寸ピートル艦ヲ見分スルタメブリマウスニ至レリ夫ヨリ父及ビ姉妹ニ長キ別ヲ告ゲンガ爲メシユリユースペリニ至レリ十二月廿四日余ハブリマウスニ居テ定メ十二月廿七日マテ此處ニ止レリ此日ピートル艦ハ遂ニ英國ノ海岸ヲ去テ世界一週ノ航海ヲ始メタリ我等ハ此ヨリ先二度モ出帆セント試ミタレトモ兩度ナガラ暴風ノ爲メ吹還サレタリ此間余ノブリマウスニ於テ過セシ二ヶ月ハ余ノ種々方法ヲ試ミタルニモ拘ハラズ生涯中最モ不愉快ナルモノナリキ余ハ斯

ク久シク家族及ビ朋友ニ別レントスルヲ思ヒ實ニ失望シタリ又天氣ハ實ニ堪ヘ難ク鬱々ト見エタリ余ハ又心臟ノ近邊ニ痛ヲ感シ又激脈ヲ感シタルガ余ハ數多ノ無識ナル青年(特ニ少シク醫學ヲ修メタルモノ)ト同シク心臟病ニ罹リタリト信シタリ余ハ醫士ヲ招クヲセザリキ何トナレバ余ハ如何ナル危難ヲモ侵シテ航海スルノ決心ナリシニ若シ醫士ニ相談スルルハ必ズ余ヲ以テ航海ニ不適當ナリト診斷スベシト確信マタレバナリ

余ハ此處ニ航海中起リタル諸ノ事柄——何處ヘ行キ何ヲ爲セタルカナゾ——ヲ記スルニ及バズ何トナレバ余ハ公ニシタル日記中充分委シク記述シタレバナリパタゴニヤノ大砂漠及ビテラデルフェイゴ—ノ蒼々タル山脉ハ余ノ心ニ深ク高大ノ考ヲ惹起シタリト雖厄熱帶地方ノ鬱蒼タル森林程今日ニ至ルマデ明活ニ余ノ心中ニ浮ビ出ルモノハ非ザルナリ裸體ノ野蠻人ガ其ノ國土ニ流浪タルハ實ニ忘ル可ラザルノ

觀ナリ馬上或ハ小舟ニテ時トシテハ數週間モ不墾ノ地ヲ旅行シタルハ余ノ愉快ハ實ニ深キモノナリキ此等ノ旅行ノ爲メ起ル所ノ危難ハ其時ニアリテモ左程ニ思ハザリシニ後ニ至リテハ固ヨリ毫モ意ニ介スル所ナカリキ又航海中余ノ爲セタル學術的ノ仕事即チ珊瑚島ノ問題又セント、ヘレナノ如キ島ノ地質的構造ヲ明ニセタルヲ回顧スルルハ實ニ満足ニ堪ヘザルナリ又ガラペーゴス群島ニ棲息スル所ノ動物ノ互ノ關係及ビ其南米ノ生物トノ關係ノ奇異ナルヲ謂ハザル可ラズ

余自ラ判斷スル所ニ由レバ余ハ此ノ航海中々々研究ヲ好ミ又博物學ノ無數ノ事實ニ幾分カラ加ヘントノ欲望ヨリ勉強シタリ然レモ余ハ又學者間ニ可ナリノ位地ヲ得ントノ欲望モアリタリ——余ハ同好者ヨリ欲望甚ダ盛ナリシカ或ハ然ラザルカハ判ズル丁能ハズ
セイント、ジェーゴ—ノ地質ハ實ニ著シケレモ甚ダ簡單ナリらばノ一

流ハ近代ノ貝及ヒ珊瑚ヨリ組成サレタル海底ニ流レ込ミテ是ヲ白色ノ堅鞏ナル岩石ニ變ジタリ其ノ後全島ハ高マレリ然レモ白岩ノ線ハ余ニ肝要ナル新奇ノ事實ヲ示セリ即チ其後常ニ働キテらばチ流出シタル火山穴ノ周圍ハ下落セリトノ事はナリ余ノ旅行シタル種々ノ國ノ地質ニ就テ書ヲ著サントノ考ノ浮ビ出テタルハ始メテ是ノ時ノ事ナリキ而シテ余ハ是ヲ考ヘテ深ク悦ビタリ是ノ時ハ實ニ余ノ記念スベキ時ナリキ而シテ余ハ余ハ余ノ息ミ居タル低キらばノ岸炎々トシテ是ヲ輝シタル大陽又二三ノ奇異ナル砂漠ノ植物ノ傍ニ生ジタルモノ及ビ余ノ足許ナル淺瀬ニ築ユル所ノ珊瑚蟲ヲ記憶スルヲ明細ナルハ實ニ愕クベキナリ其ノ後フヰツロイ氏ハ余ニ日記ノ或部分ヲ朗讀センヲヲ乞ヒ是ヲ公ニスベキヲ公言シタリ故ニ又是ニモ新著ヲナスノ望アリタリ

余ノ航海ノ終ニ近ツキアッセンシヨニコ在リタル所余ハ一書ヲ姉妹

ヨリ得タリ其中ニ曰クセザウ^ホク氏ハ余ノ父ヲ訪ヒタル所余ノ將ニ學者中ノ錚々タル者ニナラントスルヲ公言シタリト余ハ當時如何ニシテセザウ^ホク氏ガ余ノ爲セル事ヲ知リタルヤ解セザリキ然レモ余ノ(後ニ)聞キタル所ニ由レバヘンスロー氏ハ余ノ氏ニ與ヘタル手紙ヲケムブリッヂ哲學會ニテ朗讀シ且是ヲ會員ニ頒タン爲メ出版シタリト又余ノヘンスロー氏ニ贈リタル化石ノ骨ハ古生物學者中大ニ注意ヲ惹起シタリ余ハ此手紙ヲ讀ミタル後雀躍シテアッセンシヨノ山ニ登リ是ガ火山石ヲシテ余ノ髓ノ下ニ震動セシメタリ此等ノ事ハ總テ余ノ大望ヲ懷キシヲ現ハスナリ然レモ余ハ後年ニ至リテ余ノ友ナルライエル及ビフツカーノ如キ人ノ可認ヲ得ンヲ深ク勉メタレモ一般ノ公衆ノ余ニ就テノ説ハ差程心ニ介セザリシト謂フモ決シテ自ラ欺カザルヲ信ズルナリ余ノ著ニ就テ是ヲ可トセル批評又余ノ著ノヨク賣捌ケタルヲ妙シモ悦バザリシト云フニ非ズ然レモ斯ノ

如キコヨリ得タル快樂ハ決シテ永ク續カズ又是ガ爲メ余ノ行クベキ道ト思考シタルコヨリ一步モ迷ヒタルコナシト確信スルナリ

余ノ英國へ歸リテヨリ余ノ結婚ニ至ルマデ(一八三六、十月二日ヨリ一八三九、一月二十九日マデ)

此等ノ二年ト三ヶ月ハ余ノ生涯中最モ有爲ノ時ナリキ然レモ又時々病ニ罹リタルヲ以テ時間ヲ失ヒタルコアリシユリニスベリ、メアリ、ケムブリッヂ、及ピロンドンノ間ヲ度々往復シタル后遂ニ十二月十三日ケムブリッヂニ居ヲ定メタリ余ノ採集シタルモノハ總テ是處ニテヘンスロー氏ニ委托シタリ余ハ是處ニ三ヶ月間止マリ余ノ採集シタル礦物及ビ岩石ヲ教授ミラト氏ノ助ヲ以テ總テ調査シタリ

余ハ旅行日記ノ稿ヲ起シタリ是ハ甚ダ六ヶ敷仕事ニ非ザリキ蓋余ノ原稿ハ随分注意シテ認メタレバ其中ヨリ學術上面白キ事柄ヲ拔萃スルニ止マリタレバナリ余ハ又ライエル氏ノ忠告ニ由リチリ海岸ノ高マルコニ就テ余ノ少々觀察シタル所ヲ地學會ニ贈リタリ

一千八百三十七年三月七日余ハロンドンノグレート、マルボロー街ニ居ヲ定メ是處ニ余ノ結婚マデ即チ殆ド二年間止マレリ此ノ二年間ニ余ノ日記ヲ終へ地學會ニ於テ種々ノ論文ヲ朗讀シ余ノ地質上ノ觀察ノ原稿ヲ始メ又ビーグル艦航海ノ動物編ノ出版ニ就テ相談ヲ調へタリ七月ニ至リテ余ハ始テ種ノ起原ニ就テノ事實ヲ集メンガ爲メ記簿ヲ始メタリ是ヨリ先余ハ是ノ問題ニ就テ久シク熟考シ且是ノ後二十年間ハ斷間ナク此ノ問題ニ就テ研究シタリ

此等ノ二年間余ハ又社會ニ出タルコアリ又地學會ノ名譽書記ノ一名トシテ働キタルコモアリ余ハ度々ライエルニ面會セタリ氏ノ特質ハ

他人ノ仕事ニ深ク同情ヲ現ハスコナリキ余ノ英國ニ歸リテ珊瑚礁ニ就テノ意見ヲ述ベタル時氏ノ深ク是ニ興味ヲ表セシハ余ノ實ニ愕キ且悦ビタル所ナリ又是ノ事ハ余ニ大ニ勇氣ヲ與ヘ且氏ノ忠告及ビ模範トスベキ舉動ハ余ヲ深ク影響セタリ是ノ時余ハ又ロバート、ブラウソニ會シタリ余ハ常ニ日曜日氏ヲ訪ヒ其ノ朝飯ノ片共ニ談話シタルニ氏ハ眞ニ面白キ觀察及ビ鋭敏ナル批評ヲ滔々ト吐出シタリ然レモ是等ハ概テ細小ノ事ニシテ余ト共ニ學術上ノ大問題ヲ討議シタルコトナシ

又此二年間余ハ數多ノ遠足ヲナシタリ其中一ハ稍長クシテグレン、ロイニ行キタルコトナリ此ノ行ノ記ハ哲學雜誌ニ出版サレタリ此論文ハ大失策ニシテ余ハ深ク是ヲ愧ヅ余ノ南米ニ於テ觀察シタル陸地ノ高マリハ深ク余ニ感動ヲ與ヘタレバ余ハグレン、ロイノ平行線ヲ海水ノ働ナリトセリ然レモアガシ―ガ其ノ永河説ヲ公ニセルヤ余ノ説ハ維

持ス可ラザルニ至レリ當時吾人ノ知識ニテハ他ノ説明ハ爲シ能ハザリシ故余ハ海水ノ働ヲ主張シタリ而シテ余ノ誤謬ハ學術ニ於テハ排弄主義ハ侍ム可ラサルモノナリトノ訓トナリテ余ノ爲メニハ益アリタリ

余ハ終日理科學上ノ問題ニ就テ研究スルコト能ハザリシカバ余ハ此ノ二年間ニ於テ種々ノ問題ニ就テノ書ヲ讀ミ其ノ中ニハ形而上學ノ書モアリタリ然レトモ余ハ此等ノ研究ニハ眞ニ不適當ナリキ此ノ時余ハウオツウ、オース及ビコールリツヂノ詩ヲ深ク嗜ミタリ且余ハ ヘンクスカーン ヘンクスカウソニ度モ讀ミ通シタリト誇ルコトヲ得ルナリ是ヨリ先ミルトン ヘンクスParadise Lost ヘンクスハ余ノ最モ愛シタルモノナリキ而シテ余ノビーグル艦航海中遠行スル所タマ一冊ノ書ヨリ外ニ持帶スルコト能ハザリシモ余ハ必ズミルトンヲ擇ビタリ

余ノ結婚シテアツパー、ガワ―街ニ住居セシヨリロ
 ンドンヲ去テダウンニ定居セシ迄(一八三九、一月廿
 九日ヨリ一八四二、九月十四日マデ)

結婚シタル后ノ幸福及ビ其子供等ニ就テ記シ而後曰ク

余等ノロンドンニ住ヨシ三年ト八ヶ月ノ間余ハ出來ルダケ勉強シタ
 ルニモ拘ハラズ余ノ生涯中他ノ時ト比スレバ同日月ノ間ニ斯ノ如ク
 僅少ノ仕事ヲ爲シタルコトハ非ズ是ハ全ク度々病ニ罹リ又一度ハ久マ
 キ間病ミシニ原因スルナリ余ノ仕事ヲ爲シ得ルルハ重ニ珊瑚礁ニ從
 事シタリ此書ハ余ノ結婚前ニ始メ最終ノ校正ハ一千八百四十二年五

月六日ニ終ヘタリ此書ハ誠ニ小ナレモ余ハ是ガ爲メ二十ヶ月間致々
 トノ勉強シタリ何トナレバ太平洋諸島ニ就テノ書ハ總テ之ヲ讀ミ又
 數多ノ地圖ヲ引照スルコト必要ナリタレバナリ此書ハ學者間ニ珍重
 サレタリ又書中述べタル所ノ説ハ今日ニ至リテハ確定サレタリト余
 ハ思考スルナリ

余ノ諸ノ著述中此書ノ如ク演繹法ニ依テ考出シタルモノハ非ザルナ
 リ何トナレバ此書中ニ述べタル説ハ全ク余ノ南米ノ西海岸ニアリテ
 未ダ嘗テ珊瑚礁ヲ實見シタルコトナキモ既ニ考ヘタレバナリ故ニ余ハ
 生活セル所ノ礁ヲ注意シテ觀察シ以テ余ノ説ヲ實證シ且是ヲ擴張ス
 ルニ止リタルノミ然レモ此處ニ左ノ事ヲ記セザル可ラズ即チ余ハ是
 ヨリ先二年間ハ間斷ナク陸地ノ高マルコト及ビ是ト同時ニ陸地ノ削剝
 サレ且水中ニテ新ナル地層ノ積堆スルニ因テ南米ノ海岸ガ受ケタル
 所ノ變化ニ深ク注意シタリ余ハ是ニ因テ又止ヲ得ズ陸地ノ下落スル

コニ就テ思想ヲ廻ラスニ至リタリ而レテ水中ニ於テ積堆スル所ノ地層ノ代ニ珊瑚ノ漸次上方ニ向テ生長スル者アリト想像スルハ至易キコナリキ余ガ Barrier-reefs ^{バリアーリーフス} 及^ニ Atolls ^{アトリス} ノ起原ニ就テノ説ヲ唱ヘタルハタ、此ヲ爲シタルニ外ナラザルナリ

余ノロンドンニ住ミシ間珊瑚礁ニ就テノ書ヲ著シタル外又地學會ニ於テ南米ノ迷走石、地震及ビ細土ノ蚯蚓ノ作用ニ因テ生ズルコニ就テノ諸論文ヲ朗讀シタリ又余ハヒューグル艦航海ノ動物編ノ編輯ヲ指揮シタリ且又種ノ起原ニ就テ諸ノ事實ヲ蒐集スルコヲモ決シテ怠ラザリキ而シテ余ノ病ノ爲メ他ニ何事ヲモ爲シ能ハザリシ時ニ於テモ此事ハ爲シ得タリ

一千八百四十二年ノ夏余ハ少シク壯健ニ感シタルガ故獨ニテ北ウエールスニ短キ旅行ヲ爲シ昔時總テ當所ノ大ナル谿谷ヲ充物シタル所ノ氷河ノ爲メニ生シタル結果ヲ觀察シタリ余ハ聊カ實見シタル所ヲ

哲學雜誌ニ出版シタリ此ノ短キ旅行ニ余ハ深ク興味ヲ感シタリ而シテ余ガ地學上ノ研究ニ必要ナル所ノ山頂ニ登リ或ハ長キ徒行ヲナス式ノ氣力ヲ有シタルハ此ヲ以テ最終トナスナリ

余ノロンドンニ住シタル最初ノ間ハ可ナリ壯健ニシテ一般ノ社會ニ出テ、交際スルコヲ得タリ斯シテ余ハ數多ノ理學者及ビ其他多少有名ナル人々ニ會ヒタリ余ハ今其等ノ中或者ニ就テ余ノ感覺ヲ述ベシ固ヨリ價値アルコヲ言フコト能ハザレシ

余ハ結婚前モ結婚後モライエールニ最モ聚々面會シタリ氏ノ心ノ特質ハ明白ナルコト物事ヲ輕卒ニセサルコト、健ナル判斷及ビ新奇ナル思想ヲ廻ラスニ可ナリノ技倆アルコトナリト余ハ考フ余ガ地學ニ就テ如何ナルコトニテモ言ヒタル中氏ハ必ズ其事ノ全体ヲ明白ニ見ルニ至ルマデハ決シテ止マザリキ而シテ氏ハ余ヲシテ余ノ觀タルヨリモ一層明白ニ之ヲ觀セシメタルコト度々アリタリ氏ハ余ノ言出シタルコトニ對シテ

出來ル丈ノ反對說ヲ持出シ又總テ是等ノ反對說ヲ盡シタル後ト雖
久シク疑ヲ晴ラストナカリキ又氏ノ他ノ特質ハ他ノ學者ノ仕事ニ深
ク同情ヲ表スルコトナリキ

余ノボーグル航海ヨリ歸國シテ間モナク余ハ氏ニ余ノ珊瑚礁ニ就テ
ノ考ヲ説明シタリ余ノ考ハ氏ノ考ト異ナリタルモ氏ノ深ク是ニ興味
ヲ表シタルハ余ノ實ニ愕キ且獎勵サレタル所ナリ氏ノ學ヲ好ムハ實
ニ熾ナリト曰フベシ而シテ氏ハ又人類將來ノ進歩ヲ思フコト最モ銳カ
リキ氏ハ實ニ親切ナル心ヲ有シ宗教上ノ信仰否寧ロ不信仰ニ就テハ
完ク寛大ナリキ然レモ氏ハ確乎タル有神論者ナリキ氏ノ公平ナルコ
トハ實ニ著シキ者ナリキ此ハ氏ノラマルシノ說ヲ攻撃スルニ因テ大ニ
稱揚サレシニモ拘ハラズ進化說ヲ信ズル者トナリタルニ依テ明ナリ
剩ヘ氏ノ進化說ヲ信スルニ至リタルハ老年ノ事ナリキ氏ハ一日余ノ
先ニ昔ノ地學流ノ者ガ氏ノ說ニ反對セルコトニ就テ談話セシ際左ノ言

ヲ謂ヒタリトテ余ニ告グタリ曰ク若シ總テノ學者ガ六十歳ノ時ニ死
スルコトナラバ何ト幸ナルコトナラン如何トナレバ六十歳以後ニ至リテ
ハ必ズ新說ヲ拒ムコト確ナレバナリト然レモ今ニ至リテハ尙ホ死セサ
ランコトヲ望ムト謂ヘリ

ライエルハ地學ニハ實ニ大功アリト謂フベキナリ余ノ考ニテハラ
イエル程是ノ學ノ爲メニ功アル人ハアラザル可シ余ノ將サニボーグ
ル航海ノ途ニ就ントセシハ賢明ナルヘンスロー氏ハ當時始メテ出版
ニナリタル「地學原理」ヲ購求セテ是ヲ熟讀スベシ然レモ決シテ書中ニ
唱ヘタル說ヲ信ズルコト勿レト余ニ忠告シタリヘンスロー氏ハ當時一
般ノ地學者ト同シク變災說ヲ信ジタリ今日トナリテハ誰ニテモ「地學
原理」ニ就テ此ノ如キ言ヲナス人ハアラザルベシ余ノ始メテ地質調査
ヲナシタル所即チケープデヅァーデ群島中セイントジューゴハライ
エルノ地學ヲ論ズルハ當時余ノ知りタル他ノモノヨリ遙ニ優レリト

ノ事實ヲ余ニ覺ラシメタリ是實ニ余ノ今日ニ至ルマデ記シテ愉快ヲ感ズル所ナリ

ライエルノ著ノ影響ノ大ナルコトハ以前此學ノ佛英兩國ニ於テノ進歩ノ異ナリタルニ由テ明ニ見ルベシエリド、ボーモンノ「高マリ」ニ因テ生ジタル火山穴^{*}及ビ「高マリノ線」^{*}ノ如キ亂暴ナル假定ノ今全ク消滅シタルハ蓋大ニライエルノ力ニ依レリ(余ハセザウ^{*}ノガ地學會ニ於テ彼ノ「高マリノ線」ナル假説ヲ甚ク稱揚シタルヲ聞キタルコトアリ)

余ハフムボルトガ「性質温良ナル植物學ノ泰斗」ト稱シタルロバート、ブラウシニコ會シタリ氏ノ著シキコトハ主トシテ其觀察ノ細密ナルコト及ビ其觀察ノ誤ナキコトナリト見ヘタリ氏ノ智識ハ非常ナリシモ其ノ誤ヲナスコト甚ク恐レシガ故ニ大部分ハ氏ト共ニ亡ビタリ氏ハ余ニ對シテハ包マズ其知識ヲ吐露セリ然レモ或點ニ於テハ奇怪ニ匿ス所アリタリ余ハビーグル航海前二三度氏ヲ訪ヒタルコトアリシガ一日氏ハ余

ヲシテ顯微鏡ヲ覗カシメ而シテ余ノ見ル所ノモノヲ説明セヨト云ヘリ余ハ顯微鏡ニ覗キシカ今考フルニ其時見タルハ或植物細胞ノ原形質中ノ愕クベキ流れナリシナリ余ハ見タルモノハ何ナリヤト問ヒシニ氏答テ曰ク「此ハ余ノ大切ナル秘密ナリ」ト

氏ハ深ク慈善ノ行ヲナスノ心アリタル人ナリ氏ノ老年身體衰フルニ至リテ可ナリ遠方ニ住居シテ氏ノ扶助シタル僕ヲ日々「フッカー」ノ言ニ由レバ訪ヒ且是ガ爲メニ書ヲ朗讀シタリ斯ノ如キ行爲ハ如何程學術上ニハ吝嗇ナルモ或ハ人ニ匿スノ癖アルモ之ヲ贖フニ足ルナリ

余ハ是處ニ余ノ時々會シタル所ノ名士ニ就テ曰フベシ然レモ余ハ益アルコトハ謂フコトナシ余ハサー、ジョン、ハーシエルニ對シテハ深ク敬虔ノ心ヲ懷ケリ而シテ喜望峯ニ於ケル氏ノ美シキ家ニ於テ又后氏ノロンドンノ家ニ於テ招待ヲ受ケタルハ實ニ余ノ樂ミシ所ナリ余ハ此外數度氏ニ會シタリ氏ハ寡言ノ人ナリキ然レモ氏ノ語ル所ハ必ず注意シ

テ聽クベキコトヲ言ヘリ

余ハ一度サーロ、マーチソン氏ノ許ニテ有名ナルフムボルトニ會シタリ氏ハ余ヲ見ント欲ストノ望ヲ公言シタリシナリ余ハ此人傑ニ就テハ少シク失望シタリ然レモ是余ノ豫想ガ高スギシニ因ルナラム余ハ此應接ニ就テハ別ニ記憶スルコトナシタマフムボルトノ實ニ快活ニシテヨク談話ヲタルヲ記スルノミ

……ハ余ヲシテバクツルヲ記憶セシム余ハ氏ニヘンスレー、ウエヂウードノ家ニ於テ出逢ヒ其事實ヲ蒐集スルノ方法ヲ聞キテ甚ダ悅ベリ氏ノ余ニ語りし所ニ由レバ氏ハ其讀ミシ書籍ハ皆之レヲ購求シ各々ニ就テ其用ニ立ツベキ事實ノ充分ナル見出シヲ成セリ又就レノ書中斯々ノ事實ヲ讀メリヤ是ヲ常ニ記憶セリト蓋氏ノ記憶力ハ實ニ愕クベキ者ナリタレバナリ余氏ニ問テ曰ク如何ナル事實ガ有用ナラムト初ヨリ如何ニシテ知り給フヤト氏答テ曰ク知ラズ然レモ天心ノ如キ

モノアリテ余ヲ導クト斯ノ如ク見出チ成スノ習慣ニ依テ氏ハ其文明史中ニ見ルガ如キ總テノ問題ニ就テ愕クベキ多數ノ引照ヲ掲グルヲ得タルナリ余ハ氏ノ書ヲ最モ面白ク感シ是ヲ二度モ讀ミタリ然レモ氏ノ概括ハ實ニ價值アル者ナリヤ余ハ甚ダ之ヲ疑フバツクルハ實ニヨク談話セリ而シテ余ハ殆ント一言モ言ハズシテ其言フ所ヲ聽ケリ又余ハ言ハント欲スルモ能ハザリシナリ何トナレバ氏ハ妙シモ漏スコトナケレバナリフアラハ夫人ノ唱歌ヲ始メタル中余ハ突然起立シテ其歌ヲ聽ント曰ヘリ余去リタル后バツクル或友人ニ謂テ曰ク是ハ余ノ兄ガ漏レ聞キタル所ナリダーウ・ソーン氏ノ書ハ氏ノ談話ヨリ遙カ優レリト其他ノ文學大家ノ中ニテハソーン氏ニ一度ザーン・ミルマンノ家ニテ會シタルコトアリ氏ノ言フ所ハ一言々々實ニ言フ可ラザル程人ニ快樂ヲ與フルモノアリ此ハ惡ラクハ幾分カ人々ノ若思フニモ因ルナラム氏ハ當時既ニ老耄シタルコト夫人ニ就テ語テ曰ク此

貴婦人ハ一度余ノ説教ニ甚ク感動シ或友人ヨリ一ギニーヲ借リテ盆ニ入レタリ現今人々ノ信ズル所ニ由レバ余ノ舊友ナルコーク夫人ハ見漏ラサレタリト而シテ氏ハ是ヲ言フニ際シテ一種特別ノ意ヲ含マセ聽ク者皆コーク夫人ハ惡魔ニ見漏ラサレタルナリト解スル際シタリ氏ハ如何ニシテ此ヲ爲シ得タルヤ余ハ知ラズ

余ハ又一度スタンホープ公^{*}(史學家)ノ家ニ於テマコーレーニ會シタリ而シテ其時同坐シタル者ハ余ノ外タマ一人ナリタレバ余ハ氏ノ談話ヲ聞クニ最モ好機ヲ得タリ氏ハ實ニ愉快ナル人ナリキ氏ハ餘リ澤山談話セゼリキ實ニ氏ノ如キ人ハ他人ヲシテ其談話ノ方向ヲ變セシムルヲ容セルヲ以テ自ラ餘リ澤山談話スルヲ爲サマリシナリ、スタンホープ公ハ一度マコーレーノ記憶力ノ精密ニシテ缺點ナキヲニ就テ余ニ一證ヲ語リタリ數多ノ史學家ガスタンホープ公ノ家ニ於テ集會シ種々ノ問題ヲ討論スルニ際シテ或ハマコーレート説ヲ異ニ

スルヲアルル初ノ中ハ孰レカ正シキカ書籍ニ質シタリ然レモ後ニ至リテハ誰モ是ヲ爲サズマコーレーノ言フハ皆確ナリト信ズルニ至レリト

又他日スタンホープ公ノ家ニ於テ氏ノ朋トセル史學家及ビ文學家ニ會シタリ而シテ其中ニモツトレイ及ビグロイトヲ見タリ晝飯後余ハグロイトト共ニチブニング公園ヲ散步シ其談話ヲ甚ク樂ミ且其舉動ノ實ニ質朴ニシテ毫モ粧飾ナキヲ悦ビタリ

是ヨリ久シキ前余ハ史學家ノ父ナル老公ト時々會食セシコアリ公ハ奇人ナリキ然レモ公ニ就テ余ノ知リタル限ニ於テハ余ハ公ヲ愛シタリ公ハ公明柔和ニシテ且快活ナリキ公ノ顔貌ハ著シク色黒ク而シテ其衣ハ余ノ見ルルハ常ニ總テ褐色ナリキ他人ニハ完ク信ズ可ラザルヲチモ公ハ悉ク之ヲ信シタリ公一日余ニ謂テ曰ク何故汝ハ地學ヤ動物學ノ如キ無用ノ贅物ヲ棄テハ秘學ヲ修メザルヤト當時マホン公ナ

リシ歴史家ハ其父ノ余ニ此ノ如キ言ヲナスヲ驚キ而シテ氏ノ美夫人ハ甚ク是ヲ快トセリ
終ニ余ノ記セントスル人ハカーライルナリ余ハ度々余ノ兄ノ家ニ於テ氏ニ會シ又余ノ宅ニ於テモ二三度會シタルヲアリ氏ノ談話ハ其書籍ノ如ク快活ナリシモ時ニハ餘リ久シク同一ノ事ヲ談ズルノ癖アリタリ余ハ一度余ノ兄ノ家ニ於テ珍ラシキ食事ニ列席シタルヲ記ス客ニハバツペーヂモカーライルモアリキ此兩人ハ談話ヲ好メリ然ルニカーライルハ食事ノ終ルマデ沈黙ノ利益ニ就テ演説シ他人ノ言フヲ許サ、リキ食事ノ終リシハバツペーヂハ意地悪クカーライルノ沈黙ノ演説ヲ謝セリ

カーライルハ殆ンド誰ヲモ皆嘲リタリ一日氏ハ余ノ園ニ於テグロー
トノ歴史ヲ誦テ汚穢ナル濁水ニシテ其中ニ秋毫モ神靈ナルヲ非ズト
曰ヘリ氏ノ記念録ノ公ニセラル、マデ余ハ氏ノ嘲弄ヲ以テ幾分カ階

稽ナラムト思ヒタレドモ今日ニ至リテハ是ヲ疑フ氏ノ言語ハ恰モ落
膽否全ク失望ヲタレモ心ニ慈悲アル人ノ言ノ如クニ見ヘタリ氏ノ心
一杯ニ笑ヒタルハ誰レモ熟知スル所ナリ余ノ信ズル所ニ由レバ氏ノ
慈悲ハ實ニシテ虚ナルモノニ非ザリシ但幾分カ嫉妬心ノ其中ニ混ジ
タルモノアリシナランム氏ガ事物及ビ人物ニ就テ記述スルニ非常ノ
力ヲ有セシハ誰モ疑ハザルベシ余ノ考フル所ニ由レバ氏ノ記述ハマ
コーレーノ記述ニ比スレバ遙カ明活ナリ然レモ氏ノ人物ニ就テノ記
述ガ正當ナリヤ否ヤ是ハ全ク別ノ問題ナリ

氏ハ或道德上ノ廣大ナル思想ヲ人心ニ與フルニ於テハ大ニ功アリタ
リ是ニ反シテ氏ノ奴隸ニ就テノ説ハ實ニ甚シキモノナリキ余思フニ
氏ガ常ニ卑メタル總テノ科學ヲ措テ問ハザルモ氏ノ心ハ實ニ狹小ナ
ルモノナリトギングスレーガ氏ヲ以テ科學ヲ進ムルニ適シタル人ナ
リト言ヒシハ實ニ余ヲシテ愕ロカシム氏ハ余ニ反シテヒューエルノ

如キ數學者ガゴエテノ光ノ説ヲ評スルコト能ハズトテ甚ク是ヲ嘲リ
 タリ氏ハ氷河ガ少シ速カニ又ハ遅ク動クヤ又毫モ動クモノニ非ザル
 ヤ是等ヲ骨折リテ研究スルハ愚ノ至リナリトセリ余ノ判断ニヨレバ
 余ハ氏ノ如ク科學上ノ研究ニ不適當ナル人ヲ見タルコトナシ

ロンドンニ在リシ間余ハ可成丈種々ノ學會ニ規則正シク出席シ又地
 學會ノ書記ヲ勉メタリ然レモ此等ノ會ニ出席スルコト及ヒ普通ノ交際
 ハ余ノ健康ニ甚ダ不適當ナル故終ニ田舎ニ住居スルコトニ決シタリ而
 シテ我等ハ爾後常ニ田舎ヲ好シ且都ヲ去リタルコトヲ更悔シタルコトナ
 シ

ダウニ定居セシヨリ現今ニ至ルマデ一八四二、九

月十四日ヨリ一八七六マデ

我等ハサレ州及ビ他處ニ於テ種々無益ニ穿鑿セシ後遂ニ此家ヲ見
 出シテ是ヲ購ヒタリ余ハ白色ノ石灰岩ヲ以テ成レル地ニ固有ナル植
 物ノ種々異ナリタル線貌ヲ呈シ余ノ中州ニ於テ常ニ見タルモノト大
 ニ異ナル所アルヲ悦ビ加之此處ノ實ニ閑靜ニシテ且田舎風アルヲ一
 層悦ベリ然レモ此處ハ或獨乙ノ記者ガ述べタルガ如キ僻地ニ非ザル
 ナリ此記者ノ言ニ由レバ余ノ家ハタマ小馬ノ通ヒ得ル道ニ由ルニ非
 ザレバ達スルヲ得ズトハサテモ我等ガ此處ニ居ヲ定メタルハ我等ノ
 豫想セザリシ一ノ便利ヲ有セリ即チ小供等ガ面會ニ來ルニ甚ダ便利
 ナルコト是ナリ

我等ノ如キ閑靜ナル生涯ヲ送リタル人ハ數多アラザルベシ時々親戚
 ノ家ヲ訪ヒ又ハ海濱及ビ其他ニ出行ク外我等ハ何處ヘモ行キシコトナ
 シ我等ガ是處ニ來リシ後暫時ハ我等モ交際ニ出行キ又朋友ヲ招待シ

タリ然レモ余ノ健康ハ此等ノ騷擾ニ因テ大ニ害ヲ受ケタリ蓋是ニ因テ甚シキ振ヒヤ吐出ヲ催シタレバナリ故ニ余ハ已ヲ得ズ多年間總テノ交際ヲ辭セリ而シテ是等ノ交際ハ常ニ余ニ愉快ヲ與ヘタレバ斯ノ如ク交際ヲ辭スルハ實ニ余ヲシテ不自由ヲ感ゼシメタリ又同一ノ理由ニテ余ハ友人ヲ此處ニ招クヲ甚ダ稀ナリキ

余ノ第一ニ樂トナシ又余ノ生涯中唯一ノ仕事ハ即チ科學上ノ研究ナリキ而シテ是等ノ研究ニ由テ得ル所ノ愉快ハ暫時ハ余ノ日々感ズル不愉快ヲ全ク忘却セヨムルカ或ハ全ク是ヲ霧散スルニ至ルナリ故ニ余ノ遺レル生涯中記スベキコトハ余ノ種々ノ著述ヲ除テ他ニ何モ有ラザルナリ此等ノ著述ハ如何ニシテ起リタルヤ是ヲ少々記スルハ全ク無益ニ非ザルベシ

余ノ諸ノ著述ト一千八百四十四年ノ初ニ當テ余ガビートル艦航海中見分シタル火山島ニ就テノ觀察ヲ出版セリ一千八百四十五年最初一

千八百三十九年フツロイ大佐ノ記述ノ一部分トシテ出版サレタル余ノ「探究日記」ノ新版ヲ校閲スルニ骨折リタリ此ノ余ノ最初ノ著述ノ成功ハ總テ其他ノ著述ノ成功ヨリ最モ余ノ虛榮心ニ満足ヲ與フルモノナリ尙ホ今日ニ至ルマデモ此ノ日記ハ續クテ賣捌カレ獨乙語ニハ二度モ譯サレ又佛語及ビ其他ノ國語ニモ反譯サレタリ此ノ如ク旅行記特ニ科學的ノモノガ其初版后多年ヲ歷タルモ尙ホ賣捌カルハ愕クベキナリ此ノ書ノ第二版ハ英國ニ於テ二千部賣レタリ一千八百四十六年「南米地質觀察」出版サル余ノ常ニ記シタル小ナル日記ニ余ハ左ノ事ヲ記セリ曰ク余ノ三ノ地學上ノ著述「珊瑚礁」ヲ含有シテハ余ヲシテ四年ト半ク年斷間ナク勉強セシメタリ而今ハ余ノ英國ニ歸リシヨリ既ニ十年ナリ余ノ病ノ爲メニ失ヒタル時日ハ實ニ幾何ゾヤト余ハ是等ノ三書ニ就テ別ニ言フヘキコトナシタマ近頃ニ至リテ新版ノ要求アリタルヲ記スノミ

一千八百四十六年十月余ハ蔓脚類ニ就テノ著述ヲ始メタリチリノ海岸ニアリシハ余ハコンコレパスノ貝殻ニ鑿入セルモノヲ發見シタリ此種ハ總テ他ノ蔓脚類ト大ニ異ル所アリタレバ余ハ是ガ爲メ新シキ部門ヲ造ラザルヲ得ザルニ至レリ近頃ニ至リテ此ニ類シテ鑿棲スル一種ハホルトガル海岸ニ於テ發見サレタリ余ノ發見シタル種ノ構造ヲ了解セン爲メコハ他ノ種ヲ數多解剖スルコト必要トナレリスクシテ余ハ遂ニ全部類ヲ研究スルニ至レリ余ハ次ノ八年間此ノ部類ニ就テ斷間ナク研究シ遂ニ當時知ラレタル總テノ種ヲ記載セル厚キ書二卷ト化石トナリタル種ヲ記載セル薄キ書二卷ヲ出版セリサー、エ、リツト、ン、バルウ、ア、ーガ其小説中教授ロングナルモノガムぢつばニ就テ大ナル書二卷ヲ著シタルヲ記セシハ心中余ノ事ヲ想ヒタルヲ疑ナシト信ス

余ハ此ノ部類ニ就テ八年間研究シタルモ日記ニ由レバ其中殆んど二

年間ハ病ノ爲メ全ク消失シタリ余ハ此病ノ爲メ一千八百四十八年數ヶ月間水浴ノ爲メマルバアンニ赴キタリ余ハ是ガ爲メ大ニ快復シ歸リタル後又再ビ余ノ研究ヲ續クルヲ得タリ余ハ當時實ニ不快ナリマ故一千八百四十八年十一月十三日親父ノ死去サレタルハ其葬式ニ伴フヲモ得ス又其遺言ヲ行フモノノ一人タルヲモ得ザルガ如キ有様ナリキ

余ノ思フ所ニ由レバ蔓脚類ニ就テノ書ハ大ニ價值アリト信ス何トナレバ余ハ數多ノ新奇ナル種ヲ記載セシノミナラス種々ノ部分ノ相同ヲ證明シタレハナリ余ハ粘着器ヲ發見セリ但余ハ最初粘着腺ニ就テ甚ク過チタリ又はニ加ヘテ或屬ニ於テハ雌雄兩性ノ動物ニ寄生セル所ノ補充ノ小ナル雄ヲ發見セリ此終ノ發見ハ今日ニ至リテ遂ニ充分證明サレタリ然レモ一時ハ或獨乙ノ著者ガ是ヲ以テタマ余ノ甚シキ空想トナセシコアリキ蔓脚類ハ種々其形狀ヲ變ジ且分類スルニ甚

ダ難キ種ヲ含有ス故ニ余カ是ヲ研究シタルハ後種ノ起原中自然分類ノ原理ヲ講論スルニ際シテ余ニ大益ヲナシタリ然レモ此著述ハ左程時日ヲ消費シタル丈ノ價值アリシヤ余ハ之ヲ疑フ

一千八百五十四年九月ヨリ余ハ種ノ變遷ニ關シテ余ノ夥シク蒐集シタル記録ヲ整頓シ又觀察實驗ヲ爲シ始メ全ク是ガ爲メ余ノ時ヲ費シタリビーグル航海中余ハパンパス地層中現今棲息スル所ノありくひノ如ク甲チ以テ蔽ハレタル化石動物ヲ發見シ(第二)又大陸ヲ北ヨリ南方ニ向テ行クハ類似シタル動物ガ互ニ交代スル其模様ヲ見(第三)ガラペーゴス群島ノ動植物ノ多分ガ南米ノ動植物ノ性質ヲ具有シ且又島々幾分カ其生物ヲ異ニセル其模様ヲ考ヘテ大ニ感ズル所アリタリ蓋此等ノ群島ハ地學上甚ダ古シト謂フ可ラサレバナリ

斯ノ如キ事實及ヒ其他ノ事實ハタゞ種ナルモノハ漸次變遷シタリトノ假定ニ由テノミ説明シ得ルコト明ナリ而シテ是ノ問題ハ常ニ余ノ腦裡

ニ浮ヒタリ然レモ外界ノ作用モ又生物ノ意志モ(特ニ植物ノ場合ニ於テ)其妙ニ各々ノ習慣ニ適シタルコトヲ説明シ能ハザルコトモ又同シク明白ナリキ——例ヘハ啄木及ビ樹上ニ棲息セルカヘるノ樹ニ登ルニ適シシ數多ノ植物ノ種子ガ鎗或ハ羽ヲ有シテ風ノ爲メ散布サル、ニ適シタルガ如キコトナリ余ハ此等ノ適應ヲ常ニ賞歎シタリ而シテ總テ是等ガ説明サル、ニ至ルマデハ間接ノ證據ヲ舉ゲテ種ノ變遷シタルコトヲ證明セントスルモ殆ンド無益ナリト余ハ思考シタリ

余ノ英國ニ歸リタル後余ハ斯ク思考シタリ曰クライエルガ地學ヲ研究シタル例ニ倣ヒ且家蓄及ヒ培養植物ノ變形及ヒ自然界ニ於ル生物ノ變形ニ關シタル事實ヲ總テ蒐集スルハ此全問題ヲ幾分カ明ニスルニ至ルヘシト余ハ一千八百三十七年七月始メテ記録ヲナセリ余ハ正シクビーコン主義ニ從ヒ妙シモ自己ノ説ヲ立ルコトナク特ニ家蓄及ヒ培養植物ニ就テ版ニシタル問熟練シタル家蓄師及ビ植木屋ト談話

スルコトニ由テ又廣ク讀書スルコトニ由テ大ニ事實ヲ集メタリ今余ノ讀
ミ且抜粹シタル書籍ノ目錄ヲ見ルルハ其中ニ雜誌及ビ記事ノ引續キ
タルモノアリテ實ニ愕シニ堪ヘタリ余ハ久シカラズシテ人類ガ動物
及ビ植物ノ有用ナル種ヲ造ルハ全ク淘汰ナル秘密ニ因ルコトヲ發見シ
タリ

一千八百三十八年十月即チ余ノ規則正シク研究ヲ始メタル後十五ケ
月ニ至リテ余ハ偶然樂ノ爲メマルサスノ[人口論]ヲ讀メリ而シテ余ハ
是ヨリ先久シク動物及ビ植物ノ習慣ヲ觀察シタル故生存競争ノ重要
ナルコトハ深ク之ヲ悟ルコトヲ得タレバ余此ノ時以爲ラク斯ノ如キ場合
ニ於テハ有益ノ變化ハ保存サレ有害ノ變化ハ消滅スルノ傾向アルヘ
シ斯ノ如クナルルハ遂ニ新種ノ起ルニ至ルヘシト左レバ余ハ此ニ驗
スベキ說ヲ得タリ然レバ余ハ癖見ナキコトヲ甚ク勉メタレバ暫時ノ間
ハ余ノ說ノ大構ヲモ決シテ認メザルヘシト決心シタリ一千八百四十

二年六月ニ至リテ余ハ鉛筆ニテ三十五頁ニ余ノ說ノ概略ヲ記スノ愉
快ヲ自ラ許シタリ此ハ一千八百四十四年ノ夏二百三十頁ニ擴張シテ
可ナリニ寫シタルガ余ハ今ニ尙ホ此ノ寫ヲ所持セリ

然レバ是時余ハ極メテ肝要ナル一問題ヲ見遺シタリ如何ニシテ余ハ
此問題ト其解釋ヲ見遺シタルヤコロンブスノ卵子ト同一ノ理ニ非ザ
ルトハ實ニ愕シベキコトナリ此問題ハ即チ同一ノ種ヨリ出デタル生物
ガ其形狀ノ變ズルト共ニ其原種ト愈々異ナルニ至ルコト是ナリ實際生
物ハ斯ノ如ク其原種ト異ナルニ至リタルコトハ總テノ生物ノ種ガ屬ニ
含マレ屬ハ部ニ部ハ亞門ニ含マルハニ由テ證明サルナリ而シテ余ノ
車ニ乘リテ道ヲ行ク際偶然此問題ノ解釋余ノ心中ニ浮ビ出タリシハ
余ノ實ニ悦ビタル所ニシテ今ニ至ルマデ余ハ其場所ヲ精密ニ記憶ス
而シテ此事ノ起リシハ余ノダウソニ來リシヨリ久シキヲ經タル後ナ
リキ此解釋ハ余ノ信ズル所ニ由レバ總テ勢アリテ且其數ヲ増シツハ

アル生物ノ種ハ自然界ニ於テ數多ノ異ナリタル位地ニ適スルニ至ルノ傾向アルヲ是ナリ

一千八百五十六年ノ始ライエルハ余ノ説ヲ可ナリ委シク記述セシメテ勸メタリ是ニ於テ余ハ直ニ余ノ後實際種ノ起原ニ於テ爲シタルヨリ三四部モ大ナル計畫ニテ書キ始メタリ然レモ是ハ余ノ蒐集シタル材料ヲ拔萃シタルモノニ余ハ以上ノ計畫ニテ殆ド半ヲ終ヘタリ然ルニ余ノ計畫ハ壓倒サレタリ何トナレバ一千八百五十八年ノ夏當時マレー群島旅行中ナリシウオレス氏ハ變種ノ元種ヨリ無限ニ變スル傾向ニ就テノ論文ヲ余ニ贈リタリ而シテ此論文ハ恰モ余ノ説ト同一ノ説ヲ包含セリウオレス氏ハ余若シ其論文ヲ可トスルハライエルニ贈テ熟讀ヲ乞ハシテ余ニ乞ヘリ

ライエル及ビフツカーノ願ニ由リ余ノ原稿ヨリノ拔萃及ビ一千八百五十七年九月五日附ノエーサグレーニ贈リタル余ノ手紙ヲウオレス

氏ノ論文ト共ニ出版スルヲ承諾シタル其事情ハ一千八百五十八年ノリンチ學會記事第四十五頁ニ記シアリ余ガ是ヲ爲スヲウオレス氏ハ不正ナリト思考スルナラント思ヒシ故余ハ初メ是ヲ承諾スルヲ欲セザリキ何トナレバ余ハ此時氏ノ性質ノ實ニ寛大ニシテ卑シキ所ナキヲ知ラザリシ故ナリ余ノ原稿ヨリノ拔萃モ又エーサグレーニ與フル手紙モ決シテ公ニスル積ニ非ザリシ故拙ニ記サレタリ是ニ反シテウオレス氏ノ論文ハ其言辭實ニ感服スベシ其論ズル所明晰ナリキ然レモ二人ノ共ニ爲シタル仕事ハ學者ノ注意ヲ喚起スルヲナク余ハタマダブリンドン府ノホートン教授ガ是ヲ批評シタルヲ記憶スルノミ氏ハ二人ノ著作中新奇ナルヲハ皆不正ニシテ不正ナラザルヲハ皆温マト判斷シタリ是ニ由テ觀レバ總テ新奇ナル説ヲ以テ一般ノ注意ヲ喚起セント欲セバ縷々ト是ヲ説明スルヲ至テ必要ナリトシテ明白ナラ

一千八百五十八年ノ九月ニ至リテ余ハライエル及ビフツカー兩氏ノ切ナル忠告ニ由リ種ノ變遷ニ就テノ書ヲ著スコトニ掛リタリ然レモ度々病氣ノ爲メ又ムアー、パークニ於ル醫士レーン氏ノ水治療所へ赴キシガ爲メ妨ゲラレタリ余ハ一千八百五十六年一層大仕掛ニ始メタル原稿ヲ抜キ縮メ遂ニ全書ヲ斯ク減シタル仕掛ニテ終ヘタリ此著ノ爲メ余ハ十三ヶ月ト十日間孜々トシテ勉強シタリ書ハ種ノ起原ト題シテ一千八百五十九年十一月出版サレタリ再版以後ニハ數多ノ増補及ビ訂正ヲナシタレモ是ガ爲メ書ノ性質ヲ變シタルコトナシ

此書ハ余ノ生涯中最モ大切ナル仕事ナルコト疑ナシ且其始メテ出版サレタルヨリ以來常ニ世評宜カリキ一千二百五十部ノ第一版ハ出版ノ即日賣切レ又三千部ノ第二版ハ其後久シカラスニテ賣切レタリ今日(一千八百七十六年)ニ至ルマデ英國中ニ賣捌カレタル部數ハ一萬六千部ナリ而シテ其議論張リタル書ナルコトヲ考フルモハ斯ク賣捌ケタル

ハ大ナリト謂フベシ此書ハイスバニア語ボヒミア語ポーランド語及ビロシヤ語ノ如キ語ニ至ル迄總テ歐洲ノ國語ニ譯サレタリ又バード嬢ノ言ニ由レバ日本語ニモ譯サレ彼邦ニテハ連リニ讀ム人アリトヒ^{*}ブライ語ノ如キニ於テモ此書ニ就テノ一論文現ハレ余ノ説ハ舊約聖書ニ包含サレタルコトヲ證明セリトハサテモ余ノ書ニ就テノ批評ハ實ニ數多アリキ一時ハ種ノ起原及ビ余ノ是ニ關シタル書ニ就テノ論文ヲ集メシニ是等ハ(新聞紙ノ批評ヲ除テ)二百六十五ニ至レリ然レモ暫時ノ後余ハ失望シテ是ヲ止メタリ此問題ニ就テハ數多ノ論文及ビ著書現ハレ獨乙ニ於テハ「ダーウザン説」ニ就テノ書目毎年或ハ二年毎ニ現ハレタリ

種ノ起原「ガス」世評ヲ廣フシタルハ多分余ノ是ヨリ前二度モ簡略ナル概構ヲ認メ又遂ニ抜キ縮メタル原稿ヲ再ビ抜キ縮メテ小ニナシタルニ由ルト余ハ信ズ是ニ由テ余ハ特ニ著シキ事實及ビ論局ヲ撰擇

スルヲ得タリ又余ハ多年ノ間一ノ大切ナル規則ヲ守レリ即チ余ノ
 論局ノ一般ニ反シタル事實ノ公ニセラル、モノアルカ或ハ新奇ナル
 觀察又ハ思想ノ是ニ反スルモノ腦中ニ浮ヒ出タルハ必ズ直ニ是ヲ
 記シ置クヲナリ何トナレバ余ハ經驗ニ由テ斯ノ如キ事實及ビ思想ハ
 他ノ都合ヨキモノヨリ忘失スルヲ容易ナルヲ發見シタレバナリ余ハ
 此習慣アリタルニ由リ余ノ説ニ反對スル説ノ中余ガ少ナクトモ既ニ
 察シテ是ガ答辨ヲ試ミザリシモノハ殆ンド鮮カリキ

〔種ノ起原〕ノ成功ハ該問題ガ既ニ一般ノ人々ノ腦中ニ浮ビ居タルヲ又
 ハ人心ガ既ニ是ニ適シタル有様ニアリタルヲ證スナゾ謂フ人アリ
 余ノ考フル所ニ由レバ此言ハ極精密ニ正マト謂フ可ラスト何トナレ
 バ余ハ前既ニ隨分數多ノ博物學者ノ心ヲ扣キタルヲアレモ其中種ノ
 不變ヲ疑フ者一人ダモ非ザル様見エタリライエル及フツカー兩氏ノ
 如キモ余ノ説ヲ聽テ興味ヲ表シタレモ決シテ余ト説ヲ同フスルヲナ

カリキ余ハ又一二度有識ノ人々ニ余ノ所謂自然淘汰ナルモノハ如何
 ナルモノナリヤ之ヲ説明セムト試ミタレモ著ク失敗シタリ實際當
 時ノ事情ナリト余ノ信ズル所ハ即チ左ノ如シ曰ク總テ博物學者ノ腦
 中ニハ既ニ數多ノ精密ニ觀察サレタル事實無數ニアリテ是等ヲ總テ
 包括スベキ説ノ一朝充分ニ明白ニナリタルハ直ニ各々其處ニ就ク
 ベキ有様ナリシト又余ノ書ノ成功シタルハ其餘リ大ナラザリシニ由
 レリ而シテ此ハ全クウオレス氏ノ論文ノ現レタルニ因レリ若シ一千八
 百五十六年ニ始メタル仕掛ニテ全卷ヲ出版シタリシニハ〔種ノ起原〕ヨ
 リ四倍或ハ五倍ノ大ニ達シ是ヲ讀ム人モ實ニ少數ナリシナラム

余ハ一千八百三十九年即チ余ノ説ヲ明瞭ニ考察シタルヨリ一千八
 百五十九年マデ書ノ出版ヲ延引シタルニ由テ大ナル益ヲ得タリ又是
 ニ由テ損シタルヲハ毫モナシ何トナレバ此説ヲ考出シタルニ就テ世
 人ガウオレス氏ヲ以テ先トスルモ余ヲ以テ先トスルモ余ハ意ニ介スル

7 至テ鮮ケレバナリ且又同氏ノ論文ガ世人ヲシテ此説ヲ受容スルニ
 至ラシムルニ與リテ大ニカアリタリ余ハタゞ一黠ウキレス氏ニ及バ
 ザリシ所アリテ余ノ虛榮心ハ余ヲシテ常ニ是ヲ悔ヒシム即チ北極地
 方ト是ト大ニ距リタル高山ノ頂ニ同一ノ植物ノ種及ビ少數ノ動物ノ
 種ノ棲存スルヲ氷時代ニ依テ説明スルコト是ナリ余ハ此説ヲ深ク悅
 ビタレバ是ヲ委シク記述シタリ而シテ此説ハイーフォーブスガ此問
 題ニ就テ其有名ナル論文ヲ著セシ前既ニフッカー氏ガ讀ミタリト信
 ズ余等兩人ガ互ニ其説ヲ異ニシタル黠ニ就テハ余ノ説ノ正シキコト
 今ニ至ルマデ余ハ信ズ余ハ固ヨリ自ラ獨立ニ此説ヲ考案シタルコト
 公言シタルコトナシ

余ガ種ノ起原ヲ起稿セル際左ノ事ノ如ク余ニ満足ヲ與ヘタルコト殆ド
 ナシ即チ種々ノ部類ニ屬スル動物ノ成熟シタルモノト其胚ノ大ニ形
 狀ヲ異ニシ同部類内ニ於テハ胚ノ互ニヨク似肖ストノ事實ヲ説明ス

ルコト是ナリ余ノ記憶スル丈ニテハ種ノ起原ノ批評中其先ナルモノハ
 此黠ニ就テ一言モセザリキ而シテ余ハエーサ、グレイニ與フル書中此
 事ニ就テ怪ミタルコトアリキ近年ニ至リテ數多ノ批評者ハ此事項ニ就
 テ全ク功ヲヘツケル及ビフリッツ、ミューラーニ歸シタリ此兩氏ハ余ヨ
 リ一層充分ニ又或黠ニ於テハ正シク論究シタルコト疑ナシ余ハ此問題
 ニ就テ別ニ一章ヲ成ス丈ノ材料ヲ有シタリシ故一層委シク是ヲ論ズ
 ル筈ナリシ何トナレハ余ハ讀者ヲシテ此問題ヲ覺ラシムルコト能ハザ
 リシコト明ナレバナリ而シテ誰ニテモ讀者ヲシテ覺ラシムルハニ總テ
 名譽ヲ歸スベシトハ余ノ説ナリ

此序ニ謂フベキコトアリ曰ク總テ科學上ノ智識ナキ批評者ハ論ズルニ
 足ラズトスルハ余ハ常ニ批評者ヨリ正直ナル取扱ヲ受ケタリ余ノ
 説ハ度々甚シク誤解サレ又苦々シク抵抗或ハ冷笑サレタレモ此等ヲ
 ナシタル人ハ皆信實ニ是ヲナセタリト余ハ信ズ概シテ曰フモハ余ノ

書ハ幾度モ々々々大ニ過稱サレタリト余ハ信ズ余ハ又評論ヲ避ケタルヲ喜ブ是ハ全クライエルニ因レリ氏數年前余ノ地學上ノ著述ニ就テ話セル所切ニ余ニ評論ヲ避クヘキコトヲ忠告シタリ何トナレハ是ニ由リテ善チナスコトナクタマ甚シク時ト氣ヲ損フノミナレバナリト余自ラ過チシカ或ハ余ノ仕事ノ不充分ナルコトヲ發見シタル所又批評者ニ卑メラレタル所又或ハ人ヨリ過稱サレテ悼メル所ト雖モ幾百度トナク左ノ言ヲ自ラ誦ヘテ大ニ慰トナセリ曰ク余ハ力ノ及フ丈勉強且懇ニ仕事ヲナセリ誰モ是ヨリ多ク爲スコ能ハザルヘシト余尙ホテラデルフエイゴトノグードサクセス灣ニ在リシ所余ノ生涯ヲ博物學ノ爲ニ幾分カチナスニ費スコ最良ナラムト自ラ考ヘ且其事ヲ余ノ家族ニ報シタリト信ズ余ハ力ノ及フ丈此ヲ爲シタリ批評者ハ其欲スル所ヲ如何ニ言フモ此確信ヲ決シテ亡ボスコ能ハサルナリ

一千八百五十九年ノ終ノ二ヶ月間余ハ「種ノ起原」ノ第二版ノ支度ノ爲

メ及ヒ通信ノ取遣ノ夥シキ爲メ全ク時日ヲ費セリ一千八百六十年一月一日余ハ「動物及ヒ植物ガ飼養及ヒ培養ニ由テ受ル變化」ヲ爲メ余ノ扣ヲ整頓シ始メタリ然レモ此書ハ一千八百六十八年ノ始ニ至ルマテ出版サレサリキカク出版ヲ延引シタルハ蓋シ度々病ニ罹リタルト（其中七ヶ月間病ミタルコトモアリ）其時々ニ余ヲシテ面白ク感ゼシメタル事項ニ就テ著作セント誘道サレタルニ因レリ

一千八百六十二年五月十五日「蘭ノ受精」ニ就テ余ノ小著出版サル此書ノ爲メ余ハ十ヶ月ヲ消費シタリ該書ニ載ヒタル事實ノ多分ハ是ヨリ先多年間集積シタルモノナリ一千八百三十九年及ヒ余ノ信スル所ニ由レバ前年ノ夏期間余ハ植物ノ花ガ昆蟲ノ扶ニ由リテ互ニ其花粉ヲ交換スルコトニ就テ觀察スルニ至レリ蓋種ノ起原ニ就テ思想ヲ廻ス際余ハ左ノ論局ニ至リタレバナリ曰ク種ノ形狀ヲ變ゼザルハ大ニ生物ガ互ニ交殖スルニ因レリト爾後余ハ夏期多少此問題ニ注意シタリシ

一千八百四十一年十一月ロバート、ブラウンノ忠告ニ由リツエー、カ
 ー、スプレングエルノ「自然界ノ秘密ノ發見」ト題セル嘆賞スベキ書ヲ需メ
 テ是ヲ讀ミタルニ由テ大ニ興味ヲ増加シタリ一千八百六十二年ヨリ
 前數年間余ハ特ニ英國ノ蘭ノ受精ニ注意シタリ而シテ余ノ他ノ植物
 ニ就テ徐々ニ蒐集シタル夥多ノ事實ヲ用ヒンヨリ寧ロ蘭科ノ植物ニ
 就テ余ノ力ノ及ブ丈完全ナル書ヲ著スヲ最良ナラムト思考シタリ余
 ノ決心ハ無益ナラザリキ何トナレバ余ノ書ノ公ニサレテヨリ以來種
 々ノ植物ノ受精ニ就テ實ニ愕クベキ程夥多ノ論文或ハ書籍現ハレタ
 レバナリ而シテ是等ハ皆余ノ爲シ能ヒシヨリ遙カ優レリスプレング
 ルハ實ニ憐ムベシ氏ノ功績ハ久シキ間人ニ知ラレザリシモ其死後多
 年ヲ經タル今日ニ至リテ十分人ノ識認スル所トナレリ
 同年中余ハ又リンチ學會紀要ニ「さくらさう」二ノ形狀ニ就テ「論文
 ヲ出版シ又此外次ノ五年間ニ二形花及ビ三形花ニ就テ五ノ論文ヲ著

セリ余ハ余ノ學術上ノ仕事ノ中是等ノ構造ノ意味ヲ明ニシタル時程
 自ラ満足ヲ感ジタルヲ非ザルナリ余ハ一千八百三十八年或ハ三十九
 年既ニ リンナム フラーアキ *Linum flavum* ニ二ノ異ナリタル形狀アルヲ見タレモ最初是ハ
 タダ意味ナキ變化ナリト思考シタリ然レモ普通ノさくらさうノ種ヲ
 研究シタルニ二ノ異ナリタル形狀ハ實ニ規則正シク且常アリテ決
 テ意味ナキ變化ト見做ス可ラザルヲ發見セリ是故ニ普通ノさう
 さう及ビさくらさうハ雌雄異株トナラムトスルモノナリト余ハ殆
 ド確信スルニ至レリ即チ甲ノ短キ雌蕊及ビ乙ノ短キ雄蕊ハ兩ナガラ
 滅亡ニ近ヅケルモノナリトノコナリ余ハ斯ク思考シテ該植物ニ實驗
 ナシタリ然レモ短キ雄蕊ヨリ花粉ヲ取リテ短キ雌蕊ニ附着セシム
 ル所ハ是ガ爲メ結ブ所ノ種ハ他ニ出來得ベキ四ノ方法ニ由テ得タル
 ヨリ數多ナルヲ發見シタルヤ彼ノ滅亡説ハ直チニ撲滅サレタリ其
 後種々實驗ナシタル後遂ニ左ノ事實明白ニナリタリ即チ該植物ノ

二ノ形状ハ孰レモ皆雌雄兩性ノモノナリト雖モ其相互ノ關係ハ恰モ通常ノ動物ノ雌雄ノ如シトノコ是ナリミそはぎニ至リテハ一層驚クベキコニハ三ノ異ナリタル形状アリテ其相互ノ關係恰モさくらさうニ於ルカ如シ其後余ハ左ノ事ヲ發見セリ曰ク二ノ形状ヲ異ニシタル同種ノ植物ノ交合ニ由テ得タル種ハ二ノ異リタル種ノ交殖ニ由テ得タルモノニヨク類似スト

一千八百六十四年ノ秋余ハ「攀援植物」ニ就テ長キ論文ヲ終ヘ是ヲリン子學會ニ贈リタリ此論文ノ爲メ余ハ四ヶ月ヲ費セリ然レモ其校正ノ來リタルモ余ハ甚ダ不快ナリタレバ是ヲヨク爲スヲ能ハズ又數多文意ノ曖昧ナル所モアリタリ此論文ハ尠シモ人ノ注意ヲ惹カザリキ然レモ一千八百七十五年是ヲ訂正シ別冊トナシテ出版シタルモハヨク賣捌ケタリ余ノ此問題ヲ研究スルニ至リシハ一千八百五十八年出版ニナリタルエーサグレーノ短キ論文ヲ讀ミシニ因レリ氏ハ余ニ種ヲ

贈リシ故其内ヨリ二三ノ植物ヲ培養シタルニ卷纏スル所ノ卷鬚及ビ莖ノ運動ハ之ヲ一見スルモハ實ニ複雑ナルガ如シト雖モ實ハ甚ダ簡單ナルモノナレバ余ハ甚ダ之ヲ悦ビ且怪ミタリ余ハ是ガ爲メ他ノ攀援植物ヲ數多需メ總テ是等ヲ研究スルニ至レリ余ハヘンスローガ其講義ニ於テ卷絡植物ニ就テ與ヘタル説明即チ此等ノ植物ハ自ラ螺旋ヲナスノ傾向アリトノ説明ヲ以テ決シテ満足セザリシ故一層此問題ニ興味ヲ感シタリ此説明ハ全ク不正ナルヲ明ニナリタリ攀援植物ノ呈セル適應ノ或モノハ其妙ナルヲ蘭ノ交殖センガ爲メノ適應ニ毫モ劣ラザルナリ

〔動物及ビ植物カ飼養及ビ培養ニ由テ受ル變化〕ハ既ニ記シタル如ク一千八百六十年ノ始ニ始メタレモ一千八百六十八年ノ始ニ至ル迄出版サレザリキ是ハ大ナル書ニシテ余ハ是ガ爲メ四年ト二ヶ月間甚ク勉強シタリ此書中ニハ吾ガ英國ノ家畜及ビ栽培植物ニ就テ總テ余ノ觀察

セシ所及ビ種々ノ源ヨリ蒐メタル夥多ノ事實ヲ記載セリ第二卷ニ於テハ生物變化ノ原因及ビ法則遺傳等ノ事項ヲ常時吾人ノ智識ヲ以テ爲シ得ル丈十分論シタリ全書ノ終ノ部分ニ於テ余ハ十分世人ノ愚弄ヲ受ケタルばんぢぬしノ假定ヲ陳述セリ證據ナキ假定ハ實ニ其用渺ク或ハ全ク其用ナカラム然レモ此後誰ニテモ觀察ヲナシテ余ノ假定ノ如キモノヲ確定スルニ至ラバ余ハ善キ事ヲナシタルナラム何トナレバ現今互ニ關係ナキ夥多ノ事實ハ是ニ由テ纏メラレ且理解シ易キニ至レバナリ一千八百七十五年大ニ訂正ヲ加ヘタル第二版出版サル余ハ是ガ爲メ中々骨折リタリ人類ノ祖先ハ一千八百七十一年二月出版サレタリ余一タビ一千八百三十七年或ハ一千八百三十八年種ナルモノハ變遷スルモノナリト確信スルニ至リシヤ人類モ又此法則ノ支配ヲ受ケザルヲ得ズトノ信仰ヲ止ムルヲ能ハザリキ故ニ余ハ此問題ニ就テ記錄ヲ蒐メタリ此ハタゞ自ラ満足スル爲メニシテ久シキ間

ハ是ヲ公ニスル念ナカリキ種ノ起原ニ於テハ或一定ノ種ガ如何ニシテ出來セシヤ之ヲ論シタルヲナケレモ然レモ余ハ其說ヲ匿シタリトノ誹ヲ一人ノ君子ヨリモ受ケザランガ爲メ該書ニ由テ人類ノ起元及ビ其來歴モ幾分カ明ニナルベシトノ言葉ヲ加フルヲ善トセリ若シ夫レ證據ヲ擧グズシテ徒ニ余ガ人類ノ起元ニ就テ確信スル所ヲ列舉スルガ如キハ無益ニシテ且該書ノ成功ヲ妨ゲタルナラム然レモ數多ノ博物學者ハ種ノ變遷ヲ固ク信ゼルヲ見ルニ至リテ余ノ所有セル丈ノ記錄ヲ集メ是問題ニ就テ特ニ論ゼル書ヲ著ス方宜シカラント思考セリ余ハ是ニ由テ雌雄淘汰ヲ充分ニ論ズルノ機ヲ得タレバ殊ニ悦ンテ是ヲ爲シタリ此雌雄淘汰ナル問題ハ常ニ余ノ面白ムト思ヒタルモノナリ余ノ蒐集セタル材料ヲ總テ用ヒル丈充分余ノ論述シ得タル問題ハ此雌雄淘汰ノ問題ト家畜及ビ栽培植物ノ變化ト生物變化ノ原因及ビ法則ト遺傳及ビ植物ノ交殖ノミナリキ余ハ人類ノ祖

先ノ爲メ三ヶ年ヲ費シタレモ其中幾分ハ常ノ通り病氣ノ爲メ失ヒ又或部分ハ再版ノ爲メ又ハ他ノ小冊子ヲ著ス爲メ費シタリ「人類ノ祖先」ノ大ニ訂正ヲナセタル第二版ハ一千八百七十四年現ハレタリ余ノ「人類及ビ動物ニ於ル感情ノ現ハシ方」ニ就テノ書ハ一千八百七十二年ノ秋出版サレタリ是ヨリ先余ハ此問題ニ就テ「人類ノ祖先」中ノ第二章ヲ貸サムト思ヒタリ然レモ余ノ記録ヲ纏ムルニ至リテ直ニ其別冊ヲ要スルヲ明ナルニ至レリ

余ノ長子ハ一千八百三十九年十二月二十七日ニ生レタリ而シテ余ハ極始ヨリ其感情ノ現ハレ方ニ就テ記録ヲナシタリ蓋余ハ當時尙ホ早シト雖モ既ニ左ノ事ヲ信シタレバナリ曰シ極メテ複雑ナル感情ノ現ハシ方及ビ極小ノ差ヲモ現ハスモノモ其元皆漸次自然ニ起リタルモノナリト次年即チ一千八百四十年ノ夏サー、チ、ベルノ感情ノ現ハシ方ニ就テノ嘆賞スベキ書ヲ讀ミタリシガ是ニ由テ余ハ此問題ニ就テ一層

興味ヲ増セリ然レモ余ハ氏ト共ニ種々ノ筋肉ハ特ニ感情ヲ現ハス爲メ創造サレタリト信ズルヲ能ハザリキ爾後余ハ時々人類及ビ家畜ニ就テ此問題ヲ研究セリ余ノ書ハヨク賣捌ケタリ發兌ノ即日五千二百六十七部賣レタリ

一千八百六十年ノ夏余ハハートフィールドノ近邊ニ於テ優々ト息ヒ居タリ此處ニハ二種ノどろせら數多アリ而シテ余ハ其葉ニ數多ノ昆蟲ヲ捕ヘラレタルヲ見付タリ余歸ルルニ三ノどろせらヲ持歸リ是ニ昆蟲ヲ與ヘタルハ觸毛ノ運動セルヲ見タリ余ハ是ニ由テ該植物ガ昆蟲ヲ捕フハ一定ノ目的ノ爲メナラムト思考スルニ至レリ幸ニシテ余ハ一ノ確ナル驗ヲ思ヒ付ケリ即チ數多ノ葉ヲ種々密度ノ異ナリタル窒素ヲ含有セル液及ビ之ヲ含有セザル液中ニ置クヲナリ斯ク爲シテ第一ノ液ノミ植物ノ運動ヲ促スヲ發見セタルヤ其好キ研究ノ問題ナルヲ明ニナレリ

其後閑暇アルモ余ハ必ズ實驗ヲナセリ而シテ余ノ「蟲食植物」ト題セル書ハ一千八百七十五年七月出版サレタリ——余ノ觀察ヲ始メシヨリ十六年目ナリ此延引ハ余ノ他ノ著述ニ於ル場合ト同ク余ニハ大ニ利益ナリキ何トナレバ久キ時日ヲ經過シタル後ハ自分ノ著作ト雖モ恰モ他入ノ著作ノ如ク批評スルコトヲ得レバナリ植物ニシテ若シ之ニ適當ナル刺激ヲ與ルモハ動物ノ消化液ニヨク類肖シ酸及ビ醱興力ヲ有スルモノヲ含有セル流動体ヲ分泌スルモノアリトハ實ニ著キ發見ナリキ——此ノ一千八百七十六年ノ秋余ハ「植物界ニ於ル他花交接及ビ自花交接ノ結果」ニ就テ著スベシ此ノ書ハ「蘭ノ受精」ニ就テノ書ノ補遺トナスベキモノナリ彼ノ書ニ於テ余ハ他花交接ノ法方ノ實ニ完全ナルコトヲ證明シ此書ニ於ハ其結果ノ實ニ重要ナルコトヲ證スベシ余ガ此書中記載セル數多ノ實驗ヲ十一年間ナセシハ偶然一事ヲ觀察セシニ起因スルナリ而シテ余ガ充分ニ注意スルニ至リシハ度々之ヲ目撃シタル後

ナリキ此事實ハ實ニ著シキコトニシテ即チ自花交接ニ由テ得タル苗ハ第一代ニ於テスラ他花交接ニ由テ得タルモノニ比スレバ高サニ於テモ勢ニ於テモ劣ルトノ事實是ナリ又余ノ蘭ニ就テノ書ヲ再版セムト欲ス而シテ余ノ二形花及ビ三形花ニ就テノ書及ビ是ト同時ニ是ニ類シタル事項ニ就テ余ノ觀察シタルコトニシテ未ダ之ヲ整頓スルニ違ナカリシモノヲ出版セムト欲ス其時ニ至レバ余ノ勢力ハ多分盡キ余ハ悅ンテ「今終リヌ」ト言ハムノモ

一千八百八十一年五月一日記——「他花交接及ビ自花交接ノ結果」ハ一千八百七十六年ノ秋出版サレタリ余ノ信ズル所ニ由レバ此書ニ於テ達シタル結果ニ因テ同種ノ植物中甲ヨリ乙ニ花粉ヲ移運スル爲ノ種々異様ノ驚クベキ仕掛ヲ皆説明スベシト然レモ現今ニ至リテ余ハ重ニヘルマン、ミユレルノ觀察ニ由リテ左ノ事ヲ信ズ即チ當時余ノ述べタルヨリ一層強ク自花交接ノ爲メノ數多ノ適應ヲ記ス善ナリシ然レ

世斯ノ如キ適應ノアルヲ余ハ熟知セリ[蘭ノ受精]ノ大ニ増補シタル
新版ハ一千八百七十七年出版サレタリ

同年[同種ノ植物中花ノ形状ノ異ナリタル]ニ就テノ書現ハレ第二版
ハ一千八百八十年ニ出デタリ此書ハ元リンチ學會ヨリ出版シタル異
形ノ花柱ヲ有スル花ニ就テノ論文ヲ訂正シ且新シキ事項及ビ二ノ異
形ノ花ヲ有スル新植物ニ就キテノ觀察ヲ加ヘテ一纏ニナシタルモノ
ナリ既ニ前ニ言ヒシ如ク余ノ小發見中異形ノ花柱ヲ有スル花ノ目的
ヲ明ニシタルガ如キ愉快ヲ余ハ他ニ感ジタルヲナシ此ノ如キ花ノ花
粉ヲ不當ノ仕方ニ由テ交ヘテ得タル結果ハ異ナリタル變種ノ交接ニ
關係アル故甚ダ肝要ナリト余ハ信ズ然レモ此等ノ結果ヲ觀察シタル
人ハ實ニ少數ナリ

一千八百七十九年余ハ博士エルンスト、クラウゼーノ著シタル「エラス
マス、ダーウ、キノン」ノ傳ノ譯ヲ出版セシメタリ而シテ余ハ所持ノ材料ヨ

リ其人ト爲リ及ビ習慣ノ概略ヲ記シテ是ニ加ヘタリ是ノ小傳ヲ讀デ
興味ヲ表セシ人数多アリタリ然ルニ僅八百或ハ九百部ヨリ買レザリ
シハ余ノ怪ム所ナリ

一千八百八十年余ハ(見)フランソノ扶ニ由リ我等ノ合著ナル[植物ノ運
動力]ヲ出版シタリ此書ハ中々困難ナル仕事ナリキ此書ノ[攀援植物]ニ
於ルハ稍々他花交接ノ[蘭ノ受精]ニ於ルガ如ク何トナレバ進化ノ元理
ニ由ルモハ總テノ植物ガ多少同様ノ運動力ヲ有スルニ非ザレバ攀援
植物ガ斯ク異ナリタル部類ニ興リタルヲ到底説明スルヲ能ザレハ
ナリ而シテ實際然ルヲ余ハ證明シタリ加之余ハ左ノ稍々廣大ナル
概括ヲ爲スニ至レリ即チ光重力等ニ因テ起ル所ノ運動ノ肝要ナル類
ハ皆是等ノ基礎トナルベキ圓轉ナル運動ノ種々其状態ヲ變シタルモ
ノナリトノ事はナリ余ハ生物界ニ於ル植物ノ位地ヲ高メルヲ以テ常
ニ樂トセリ故ニ根ノ先端ガナス所、實ニ數多ノ恰適シタル運動ヲ證

明スルヲ特ニ愉快ニ感シタリ

余ハ今(一千八百八十一年五月一日)蚯蚓ノ作用ニ由テ植物細土ノ出來ルヲニ就テノ小著ノ原稿ヲ活版屋ニ贈レリ此ハ餘リ重要ナル問題ニハ非ズ又讀者ヲシテ面白ク感ゼシムルヤ否ヤ知ラズ然レモ余ハ之ヲ面白ク思ヒタリ是書ハ四十餘年前地學會ニ於テ朗讀シタル一小論文ヲ完了シタルモノニシテ昔ノ地學思想ヲ恢復セタリ

余ハ此ニテ余ノ出版セタル書ヲ總テ記シタリ是等ハ余ノ生涯ノ一里塚ナリ故ニ尙ホ言フヘキヲ鮮シ余ハ過ル三十年間心ノ變ジタルヲアルヲ覺ヘズ但後記スベキ一點ニ於テハ然ラス且又一般ニ衰フル外別ニ變化アルヲ望ムベキニ非ズ然レモ余ノ父ハ齡八十三ニ及ビタレモ其心ハ毫モ臆臆タルヲナカリキ而シテ余モ亦心ノ著シク衰フル前ニ死ソフヲ望ム余ハ正シキ説明ヲ推量シ又ハ實驗ヲ工夫スルヲニハ較々功ニナリタリト考フ然レモ此ハタゞ熟練ト知識ノ増シタル結果ニ

過ギザルモ知レス余ハ考ヲ簡單ニ明瞭ニ言現ハスニ困難ヲ感ズルヲ少シモ昔日ニ異ナラズ余ハ是ガ爲メ大ニ時ヲ失ヒタリ然レモ又余ハ是ガ爲メ久シク注意シテ各々ノ辭ヲ熟考セザルヲ得ザル故幾分カ余ノ損ヲ贖ヒタリ斯ニテ余ハ議論ノ誤レルヲ知リ又自ラ及ビ他人ノ觀察ニ誤レル所アルヲ知ルニ至レリ

余ノ心中ニハ何か一物アリテ余ノ言ハント欲スルヲ必ズ不當カ或ハ不肖合ニ書キ表ハサシムルガ如シ以前余ハ文章ヲ書ク前ニ是ヲ心中ニ廻ラスヲ常トセリ然レモ此ノ多年間左ノ事ヲ發見セリ即チ余ノ言ハント欲スルヲ可成急ギテ書キ而後徐ニ是ヲ訂正スル方時間ヲ費スル少シトノヲ是ナリ斯ク急ギテ書キタル文章ハ余ノ熟考シテ書キタルモノニ優レルヲ多シ

是マデハ余ノ著述ノ仕方ニ就キテ述ベタリ是ニ加ヘテ言ハント欲スルヲハ即チ大ナル著述ノ爲メニハ其材料ノ順序ヲ定ムル爲メ大ニ時

日ヲ費ス。是ナリ最初余ハ極粗ナル概構ヲ二三頁ニ認メ然ル後稍々多數ノ頁ニ一層大ナルモノヲ作レリ是ニハ講論ノ全部或ハ多數ノ連續シタル事實ヲタゞ數言ヲ以テ記セリ充分委シク述ブルマデニハ是等ノ各課目ヲ又擴張シ或ハ其順序ヲ易フルコアリ余ノ著作ノ中ニハ大ニ他人ノ觀察シタル事實ヲ採用シ又余ハ同時ニ數多ノ問題ヲ研究スルコト常ナル故左ノ事ヲ記サン即チ余ハ三十乃至四十ノ藝ヲ供ヘ是ヲらべる付ノ箱ニ入レ置クコナリ斯クシテ余ハ如何ナル扣ヘモ此ノ藝中ニ入レ得ルナリ余ハ夥多ノ書籍ヲ求メタリ而シテ各ノ終ニ余ノ著述ニ關係アル事實ノ見出シヲ作レリ或ハ若シ其書ガ余ノ所有ニ非ザルハ別ニ其肝要ナル處ヲ扣ヘタリ而シテ余ハ斯クシテ作りタル扣ヘヲ大ナル引出シ一杯所有セリ一ノ問題ニ就キテ著述ヲ始ムル前余ハ前ニ記シタル短キ見出シヲ總テ穿鑿シテ一般ノ分類シタル見出シヲ作ルヲ常トス而シテ前ニ記シタル藝ノ中其問題ニ關スルモノヲ

開クハ余ノ生涯中蒐メタル知識ハ皆余ノ目前ニアリ
 既ニ記シタル如ク余ノ心ハ過ル二三十年間ニ於テ變ジタル所一點アリ余ノ三十歳ニ至ルマデ或ハ又其後モ多種ノ詩例ヘパミルトングレ
 ーバイロンウヅウオースコーリッヂ及ビシエレーノ作ノ如キ皆余ノ好ミシ所ナリ余既ニ小學校ニ在リシハシエンスピア―特ニ其歴史的ノ作ヲ深ク樂ミトセリ余ハ又以前深ク書ヲ好ミ又音樂ヲ大ニ好ミタルコトヲ記セリ然レモ此多年間余ハ詩ノ一行ヲモ讀ムコトヲ欲セズ近頃シエンスピア―ヲ讀マント試ミタレモ面白カラヌコト此上ナク余ハ是ガ爲メ實ニ不愉快ニ感シタリ又書及ビ音樂ニ就テノ嗜好モ失ヘリ音樂ハ余ニ快樂ヲ與ヘズシテ反テ余ノ其時研究セル問題ヲ深考スルニ至ラシム余ハ尙ホ美景ヲ好ムノ能アレモ昔日起リタルガ如キ深キ感情ヲ惹起スコ能ハザルナリ是ニ反シテ矢張想像的ノ作ナル小説ハ極名作ニ非ラズト雖モ多年間余ニ休息ト愉快ヲ感セシメタルコト

クベキ程ナリ而シテ余ハ如何ナル小説家ノ爲メニモ其幸福ヲ祈ルコ
アリ余ノ爲メニ朗讀サレタル小説ノ數ハ驚クベキ程ナレモ若シ可ナ
リノ作ニシテ話ノ結局ガ悲シキコトニ非ザレバ余ハ總テ是好メリ實
ニ小説ノ結局ガ悲シキコトニ非ザル爲メニ法律ヲ設クベキナリ余ノ好
ム所ニ由レバ若シ小説中讀者ガ全心モテ愛シ得ル人物アルニ非ザレ
バ上作ト謂フ可カラズト而シテ其人物ガ若シ可愛キ女ナレバ尙更宜
シ

此ノ如ク高尙ナル美術的ノ嗜好ヲ失ヒタルハ實ニ奇ニシテ且悲ムベ
キナリ而シテ一層奇ナルコトニハ歴史傳記及ビ旅行記(其中科學的ノ事
實ノ有無ヲ問ハズ)及ビ種々ノ問題ニ就テノ論文ヲ樂ムコト毫モ昔日ニ
異ナルコトナキコトナリ余ノ心ハ夥多ノ事實ヲ集メテ是ヨリ一般ノ法則
ヲ分拆シ出ス爲メノ機械ニナリタルガ如シ然レモ何故是ガ爲メ高尙
ナル嗜好ニ關スル腦ノ部分ノミガ衰ヘタルヤ余ハ覺ルコト能ハズ余ノ

心ヨリ一層高等ナルカ或ハ一層良キ構造ノ心ヲ有セル人ニ於テハ此
ノ如キコトハ非ザルベシト信ズ余ニシテ再ビ生涯ヲ送ルコトヲ得ルナラ
少クトモ一週ニ一度ヅ、詩ヲ讀ミ又音樂ヲ聽クヲ規則トナサム何ト
ナレバ今衰ヘタル腦ノ部分ハ斯ク常ニ使用スルニ由テ其勢ヲ保チシ
ナラム是等ノ嗜好ヲ失フハ恰モ幸福ヲ失フニ異ナラズ而シテ或ハ知
力ニ損害ヲ及ボシ又人性ノ情ノ部分ヲ弱ナラシムルガ故恐ラクハ德
義上ノ性質ヲモ損フニ至ラム余ノ著作ハ英國ニ於テ多ク賣捌ケ數多
ノ國語ニ反譯サレ且外國ニ於テモ度々再版サレタリ余聞ク外國ニ於
テ重ゼラル、ハ其書ノ長ク後世ニ遺ル徵ナリト此ハ信ズベキコトナリ
ヤ余ハ疑フ然レモ若シ此ノ標準ニ由テ判斷サ下ストハ余ノ名ハ數年
間遺ル筈ナリ故ニ余ノ因テ以テ成功シタル心質ト事情ヲ分拆セムト
試ムルハ敢テ無益ノコトニ非ザルベシ固ヨリ誤ナク是ヲ爲スコト誰モ
能ハザルハ余ノ熟知スル所ナリ

余ハ或人——例ハバハックスレー氏——ノ如クニ著シキ神速ナル理解力ヲ有セズ故ニ余ハ批評家ニ非ズ論文或ハ書ヲ讀ムト初ハ大抵是ヲ賞揚ス而シテ其弱點ヲ見出スハ久シク是ヲ熟考シタル後ニ非ザレバ能ハズ余ノ全ク無形的ノ長ク連續シタル思想ヲ廻ス能ハ至テ小ナルモノナリ故ニ余ハ形而上學及ビ數學ニハ決シテ卓ルコト能ハザリシナラム余ノ記憶力ハ廣ケレモ朦朧ニシテ余ノ將ニ違ヒントスル論局ニ反スルカ或ハ是ニ符合スル所ノ事ヲ自ラ觀察セシカ或ハ書中ニ讀ミタルコアルヲ注意スルノミ而シテ暫時ノ後余ハ大抵其ノ何處ニアリシヤ是ヲ思ヒ出シ得ルナリ實ニ余ノ記憶力ハ一方ヨリ言ヘバ憐レナル者ニシテ年號又ハ詩ノ一行ヲ數日間ヨリ久シク記憶スルコト決シテ非ザルナリ

余ノ批評者ノ中左ノ言ヲナセル者アリキ曰ク「成程渠ハ觀察ハ良クナヒドモ議論ハ毫モ能セズ」ト余ハ此言ヲ以テ當レリトナスコト能ハズ何トナレバ「種ノ起原」ハ始ヨリ終ニ至ルマデ一筋ノ議論ニシテ隨分有織者ヲ服セシメクレバナリ議論ヲ毫モ能ヒザル者ニシテ此ヲ著スコト能ハザルベシ余ハ又可ナリニ工夫及ビ通帝ノ智慧即チ判斷力ヲ有ス然レモ此ハタゞ可ナリノ法律家又ハ醫士ガ必ズ有ナル位ノモノニシテ敢テ是ニ越エタルニ非ズト余ハ信ズ善キ方ヨリ言ヘバ余ノ凡庸ノ人々ニ卓レタル點ハ人々ノ注意ヲ惹カザル事ヲ視且是ヲ注意シテ觀察スルニアリト事實ヲ觀察シ且是ヲ蒐集スルニ於テハ余ハ出來ル丈精一杯勉強シタリ然レモ最モ肝要ナルコトハ余ノ博物學ヲ斷ヘズ熱心ニ愛セシコトナリ

然レモ此ノ潔白ナル愛心ヲ大ニ扶ケシ者ハ他ノ博物學者ニ重ゼラレント欲スル望ナリキ余ノ尙ホ少年ナルトヨリ余ハ何ニテモ自ラ觀察セシコトヲ理解シ即チ是ヲ説明セントノ欲實ニ強カリキ是ヲ説明スルトハ即チ總テノ事實ヲ一般ノ法則ニ包括セシムルコト是ナリ是等ノ諸

原因相合シテ如何ナル問題ト雖モ其未ダ説明ヲ得ザル中ハ幾年ニテモ是ヲ攻究スルノ忍耐力ヲ余ニ與ヘタリ余ノ判スル所丈ニテハ余ハ其理ヲ知ラズシテ徒ニ他人ノ説ニ從フノ弊ナシ余ハ斷ヘズ如何程余ノ愛スル假説而シテ余ハ各問題ニ就キテ假説ヲ爲ザルヲ得ズト雖モ余ノ心ガ是ガ爲メニ箝束サレズ事實ノ是ニ反スルモノアルヲ見タルハ直ニ是ヲ棄ル様勉メタリ余ハ實ニ斯クナサズノ他ニ方法ナカリキ何トナレバ珊瑚礁ヲ措テ問ハザルハ余ノ始メテ爲シタル假定ニシテ暫時ノ後全ク弄擲スルカ然ラザレバ大ニ是ヲ變ズルニ非ザレバ用ユルヲ能ハザルモノ殆ンド皆然レバナリ此事ハ余ヲシテ大ニ科學上ノ演繹理論ヲ重セザルニ至ラシメタリ然レモ余ハ懷疑者ニハ非ズ懷疑心ハ科學ノ進歩ニ有害ナルモノナリト余ハ信ズ幾分カノ懷疑心ハ科學者ヲシテ其時ヲ大ニ損亡セザラシメテ有用ナルモノナレモ余ノ會シタル人々ノ中是ガ爲メ實驗或ハ觀察ヲ妨グラレタル者アリ

キ此等ノ人々ガ若シ實驗或ハ觀察ヲナシタラバ或ハ直接ニ或ハ間接ニ其用ヲナシタルヲ疑ナシト余ハ信ズ

是ヲ明ニセンガ爲メ余ノ知レル中其最モ奇ナルモノヲ舉ゲン東部ノ州ヨリ一紳士同人ハ當地方ニ於テハ中々ノ植物學者ナリト余ハ後聞ケリ余ニ書ヲ贈テ曰ク今年普通ノそら豆ハ皆其處ヲ誤テ生ゼリト余ハ是ニ答テ君ノ言ハ何ノ謂ナリヤ毫モ解セザル故尙ホ委シク報セラレヨト曰ヘリ然ルニ久キヲ經タルニ余ハ是ガ答ヲ得ザリキ其後二ノ新聞紙中左ノ言アルヲ見タリ曰ク今年そら豆ハ皆其處ヲ誤テ生ゼリト此新聞紙ノ一ハケントノモノニシテ他ハヨシ州ノモノナリキ故ニ此ノ如キ一般ノ事ナレバ余ハ全ク是ヲ無根ト思ハザリキ是ニ於テ余ケントノ老人ナル植木屋ニ行キ該事ニ就キテ何カ傳聞シタリヤト問ヒシニ同人答ヘテ曰ク否其ハ必ズ誤謬ナラム何トナレバそら豆ノ其處ヲ誤テ生ズルハタマ閏年ノミ然ルニ今年ハ閏年ニ非ザレバナリ

ト余問テ曰ク然ラバ平年ニハ何處ニ生シ閏年ニハ何處ニ生ズヤト然レ而余ハ直ニ同人ノ豆ノ生シ方ニ就テ秋毫モ知ラザルヲ發見セリ然レ而彼ハ尙ホ其信ズル所ヲ弄テザリキ

暫クシテ始テ余ニ此事ヲ報シタル人ヨリ書ヲ得タリ氏ハ種々辨シテ曰ク余ノ此事ヲ君ニ報シタルハ蓋數多ノ有識ナル農夫ヨリ是ヲ聞キタルニ因レリ然レ其後各農夫ニ就テ質シタルニ誰モ自ラ謂ヒタルヲ何タルヤ毫モ是ヲ知ラザリシト故ニ此ハ一ノ信仰―若シ意味ナキ言葉ヲ信仰ト稱スルヲ得ハ―ガ殆ンド全英國ニ漫延シタル一例ナリ

余ハ生涯中タダ三ノ故意ニ出デタル詐ヲ知ルノミ而シテ其一ハ或ハ放言(而シテ學術上ノ放言ハ昔ヨリ随分アルヲナリ)ナリシヤモ知レズ然レ而其ハ遂ニ米國ノ一農業雜誌ヲ取込ミタリ其事柄ハナラシムダニ於テ牛ノ全ク異ナリタル種ヲ交殖セシメテ新奇ナルモノヲ造出スル

ヲニ關セリ(牛ノ種ノ中或モノハ全ク交殖セサルヲ余ハ知レリ)而シテ記者ハ無禮ニモ余ト書ヲ取遣シ且余ハ氏ノ得タル結果ノ重要ナルヲ深ク感ゼリト公言セリ英國ノ或農業雜誌ノ編輯者ハ此論文ヲ余ニ贈リ是ヲ轉載スル前余ノ説ヲ聽カント欲スト謂ヘリ

第二ハ記者カ自ラさくらさうノ色々ノ種ヨリ造出シタル數多ノ變種ニ就キテノ記述ナリキ是等ノ變種ハ親草オキダマニ昆蟲ノ近ヨラサル様注意シテ蔽ヒタレレ其結ビシ實ハ臺モ常ニ異ナリシコトナシト此事述ノ出版サレシハ余ノ異形花柱ノ意味ヲ發見セザリシ前ナリキ此記述ハ全ク詐ナリシカ然ラサレハ昆蟲ヲ遠ザクル爲メ用ヒタル方法ノ方外ニ粗ナリシナラム

第三ハ是ヨリ尙ホ珍シフース氏ハ其近親結婚ニ就テノ書中ベルギーノ或著者ヨリ長キ拔萃ヲナセリ此ノ著者ハ自ラ兎ヲ近親中ニテ交接セシメテ幾代ヲモ重テタレレ是ガ爲メ毫モ不良ナル結果ナカリシト

曰へり此記述ハ至テ尊敬スベキ紀要即チベルギ王國學士會院ノ紀要ニ出版サレタリ然レトモ余ハ是レヲ疑ハザルヲ得ザリヤ——何故ナリヤ余自之ヲ知ラズタダ此場合ニ於テハ如何ナル事モ起ラザリシト然ルニ余カ動物ヲ交接セシメタル經驗ニ由レバ斯ノ如キコハ實ニ信シ難キナリ

故ニ余ハ大ニ躊躇シタレモ遂ニ教授フアンベギデン氏ニ書ヲ贈テ前ノ著者ハ信用スベキ人ナリヤヲ問ヘリ後久シカラスシテ答ヲ得タルニ學士會院ハ前ノ記述ノ全ク虚偽ナルヲ發見シテ大ニ愕キタリト著者ハ公然紀要ニ於テ其住所及ビ其試験ニ用ヒタル數多ノ兔ノ所在ヲ明ニセヨト挑マレタリ此ノ試験ヲ爲スニハ實ニ多年ヲ要スベシ然ルニ著者ハ遂ニ是ニ答フルコトヲ爲サザリヤ

余ノ習慣ハ規律アリ而シテ此ハ余ノ擇ビタル仕事ノ爲メニハ大ニ益アリキ且余ハ活計ノ爲メニ働ク必要ナカリシ故充分ノ時日ヲ得タリ

病氣ノ爲メ生涯中ノ多年ヲ消失シタリト雖モ其スラ反テ余ヲシテ交際及ビ遊樂ノ爲メ心ヲ亂ラザラシメタリ

此故ニ余ハ科學上如何程ノ事ヲ爲シタルヤ知ラザレモ余ノ爲シタル丈ハ種々複雑ナル心質及ビ事情アリテ然ラシメタリト信ズ其中重ナルモノヲ舉レバ——科學ヲ愛スルコト——如何ナル問題ニテモ久シク是ヲ心中ニ廻ラスコト——事實ヲ觀察シ且蒐集スルニ惰ラザルコト——且是等ニ加ヘテ可ナリノ工夫力及ビ通常ノ知慧ヲ有セシコトナリ余ノ如キ伎倆ノ人ニ卓越セザルモノニシテ或重要ノ事項ニ就キテ科學者ノ信仰ヲ大ニ影響シタリシハ實ニ愕クベキナリ

〔ダーウソン氏ハ一千八百八十二年四月十九日死セリ享年七十四歳ハウエストミンスタープエーニアリニユートンノ墓ヲ距ルコト僅ニ數尺ナリト云フ〕

明治廿四年八月四日印刷
明治廿四年八月五日出版



譯者

五島清太郎

發行者

柳原新一郎

印刷者

熊田宜遜

印刷所

熊田活版所

東京市神田區裏神保町一番地

敬業社

發售書
肆

東京市本郷區本郷四丁目七番地

敬業社支店

東京市神田區松下町十三番地

賣 捌 書 肆

東京市日本橋通三丁目

同 市新橋竹川町

京都市河原町二條下ル

大阪市中心齋橋筋北久寶寺町

全 市備後町四丁目

全 市全區 全町

全 市全區北久太郎町四丁目

名古屋市中通四丁目

橫濱辨天通四丁目

秋田市中通町

熊本市新町

肥後國佐賀市白山町

筑後國久留米米屋町

長崎港酒屋町

全 引地町

信州長野

加州金澤片町

越中富山四十物町

鹿兒島市中町

丸善商社

共益商社

大黒屋

三水佐助

石井鈞三郎

梅原龜七

柳原喜兵衛

川瀬代助

丸屋書店

鈴木鐵治

長崎次郎

河內壯助

菊竹書店

安中半三郎

鶴野常藏

西澤喜太郎

益智館

中田書店

吉田幸兵衛